

酪農学園大学
獣医学群獣医学類

獣医学教育評価 自己点検・評価ワークシート

目次

1. 使命・目的	1 ～	3
2. 教育課程・学習成果	4 ～	4 0
3. 学生の受け入れ	4 1 ～	4 4
4. 教員・教員組織	4 5 ～	6 5
5. 学生支援	6 6 ～	7 2
6. 教育研究等環境	7 3 ～	9 4
7. 社会連携・社会貢献	9 5 ～	1 0 1
8. 点検・評価、情報公開	1 0 2 ～	1 0 5

獣医学教育評価

自己点検・評価ワークシート

1 使命・目的

＜獣医学教育（学士課程）の目的の設定、周知・公表＞

【評価の視点 1-1】当該獣医学教育（学士課程）を設置する大学の理念・目的に沿って、獣医学教育（学士課程）の目的を定めていること。

●基本情報：獣医学教育（学士課程）の目的を下欄に記入してください。

酪農学園大学は、キリスト教に基づく三愛精神「神を愛し、人を愛し、土を愛する」を建学の精神とし、黒澤西蔵が唱えた「健土健民」の理念の下、一人ひとりの個性を磨き、身に付けた知識や技術を社会で活かす力をはぐくむ「実学教育」を行ってきた。本学の建学の精神である「三愛主義」は、キリスト教の教えのもとに「神を愛し、人を愛し、土を愛する」ことに徹した人間教育主義であり、多様な隣人への寛容な精神と、人類存続の礎である大地を尊ぶ精神の涵養を説く。その目的は建学の精神を受け継ぎ、「健土健民」の教えを实践し、「生命を紡ぐ大学」として大地が生み出す命を未来へと繋ぎ、全人類の福祉向上に貢献する担い手の養成である。

この建学の精神にもとづく教育は80年の歴史を有し、農業振興に大きく貢献してきた。これを受け継ぐ新しい教育は、「農・食・環境・生命」を基軸に自然との調和の取れた循環型農業の維持・発展を図り、人と動物の生命の存続と福祉に貢献し、かつ世界的活動に参加する人材を育てることである。主体的に世界の変化に対応し、課題を見極め、課題解決に対し幅広く、柔軟かつ総合的な判断力を持った担い手を育てる。すなわち農業にかかわる複合的問題を解決する能力を持ち、多角度から物事を観察する能力や総合的思考力、的確な判断力、かつ豊かな人間性を持った人材を輩出することである。

獣医学群は、本学の建学の精神（三愛精神・健土健民・実学教育）に基づき、獣医学と獣医保健看護学とその関連科学の教育を通して生命を尊ぶ豊かな人間性を育み、人類と動物の福祉及び自然環境との調和とその共存に貢献する人材を育てる。すなわち専門知識・技術及び総合的な判断力を習得し、国際的視野に立って人と動物の健康保持、環境保全ならびに食料の安定供給に寄与する人材を養成することである。また、高等教育機関として地域社会における知識・文化の中核として、さらに将来に向けた地域活性化の拠点としての役割を担う人材の教育を目的とする。獣医学群の教育は、ライフサイエンスに根ざした実践を目指した応用科学であり、医学、農学、生物学など広範囲な学問分野を含み、獣医学類と獣医保健看護学類が協力して、様々な分野で求められている広範囲な専門知識と技術を取得し、チーム獣医療を実践できる人材の育成を教育の基本方針とする。

以上の本学ならびに獣医学群の教育理念のもと、獣医学類における獣医学教育（学士課程）では、新たな知の創造につながる獣医学専門教育を積み上げ、問題を解決する能力を養い、指導的な役割を果たしうる人材を育成する。研究や討論を実践的に積み上げる学生参加型の授業及び実習を充実し、教養と豊かな人間性、国際的感覚、強固な責任感と高い倫理性を取得する専修教育を実施する。

【自己評価 1-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	獣医学の使命・目的を、当該獣医学教育（学士課程）を設置する大学の理念・目的に沿って定めている。	3
	獣医学の使命・目的を、当該獣医学教育（学士課程）を設置する大学の理念・目的に沿って定めているが十分ではない。	2
	獣医学教育（学士課程）の目的を定めていない。	1

【評価の視点 1-2】獣医学教育（学士課程）の目的を学生、教職員に周知していること。

●基本情報：獣医学教育（学士課程）の目的に関して学生、教職員に周知を図っている方法を下欄に記入してください。

以下の方法にて、【評価の視点 1-1】に示した獣医学教育（学士課程）の目的に関して、学生、教職員に周知を図っている。 ・ 本学ホームページ http://www.rakuno.ac.jp/outline/about/educationpolicy/p0101/p0103.html ・ 履修ガイド ・ 獣医学類新入生ガイダンス ・ 獣医学類リーフレット
--

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	学生及び教職員に対して十分周知を図っている。	3
	学生及び教職員に対して周知が十分ではない。	2
	学生及び教職員に対して周知を図っていない。	1

【評価の視点 1-3】獣医学教育（学士課程）の目的をウェブサイト、大学案内等を通じて、広く社会に公表していること。

●基本情報：獣医学教育（学士課程）の目的の公表方法を下欄に記入してください。

【評価の視点 1-1】に示した獣医学教育（学士課程）の目的を以下の方法で広く社会に公表している

- ・ 本学ホームページ

<http://www.rakuno.ac.jp/outline/about/educationpolicy/p0101/p0103.html>

- ・ 履修ガイド

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	ウェブサイト及び大学案内等に掲載している。	3
○	ウェブサイトまたは大学案内等に掲載している。	2
	公表していない。	1

※ 評価の視点 1-1～3 に関する自己点検・評価の概要・長所・問題点を箇条書きなどで簡潔に記載してください。

評価の視点 1-1：

- ・ 自己点検・評価の概要：本学の建学の理念・目的に沿って、獣医学教育（学士課程）の目的を定めている。
- ・ 長所：建学の精神に基づいた獣医学教育（学士課程）の目的を設定している。

評価の視点 1-2：

- ・ 自己点検・評価の概要：獣医学教育の目標については、本学の理念、目的に沿って定められており、本学ホームページ、履修ガイド等により学生及び教職員に周知・公表しており、概ね基準を満たしている。
- ・ 長所：建学の精神に基づいた獣医学教育（学士課程）の目的を設定し、学生、教職員に周知している

評価の視点 1-3

- ・ 自己点検・評価の概要：獣医学教育の目標については、大学ホームページにより社会に公表しているが、大学案内には掲載していない。
- ・ 長所：建学の精神に基づいた獣医学教育（学士課程）の目的を設定し、学生、教職員に周知している
- ・ 問題点：大学案内に掲載していないこと。

2 教育課程・学習成果

(1) 教育課程

＜学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の設定、公表＞

【評価の視点 2-1】獣医学教育（学士課程）の目的に基づき、修得すべき知識・技能・態度など獣医学（学士）の学位にふさわしい学位授与方針を定めていること。

●基本情報：学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を下欄に記入してください。

獣医学群は大学設立の理念に基づき社会的ニーズの高い分野で活躍できる人材、獣医師ならびに動物看護師としてチーム獣医療を担う質の高い実践能力を備えた「高度職業人」としての人材ならびにそれぞれの分野や地域においてリーダーとして活躍できる獣医療従事者を卒業させる。

獣医学類における獣医学教育（学士課程）では、以下の能力を身につけ、豊かな知性と人間性を持ち、「人と動物を取り巻く環境の相互的な関連の重要性」を獣医師として社会に発信できる人材に対し学位を授与する。

- ・ 獣医師の社会的責務を果たすための使命感、倫理観、責任感、コミュニケーション力を修得する能力
- ・ 学際的な視点を持ち、物事の本質を見通す洞察力、先見力、創造力、応用力を習得する能力
- ・ 科学的な根拠を基礎とし、世界的な視野で人間社会の健全な発展に寄与でき、さまざまな情報を統合して、的確な判断を行い、必要な行動ができる能力

【自己評価 2-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	修得すべき知識・技能・態度など獣医学（学士）の学位にふさわしい学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を定めている。	3
	修得すべき知識・技能・態度など獣医学（学士）の学位にふさわしい学位授与方針を定めていない。	2
	学位授与方針を定めていない。	1

【評価の視点 2-2】学位授与方針を公表していること。

●基本情報：学位授与方針の公表方法を下欄に記入してください。

以下の方法にて、学位授与方針を公表している。

- ・ 本学ホームページ

<http://www.rakuno.ac.jp/outline/about/educationpolicy/p0101/p0103.html>

- ・ 履修ガイド

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	ウェブサイト及び大学案内等に掲載している。	3
○	ウェブサイトまたは大学案内等に掲載している。	2
	公表していない。	1

【評価の視点 2-3】学位授与方針に基づき、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を示した教育課程の編成・実施方針を定めていること。

●基本情報：教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を下欄に記入してください。

獣医学群では、1 年に、建学の精神を礎に豊かな知性と人間性を獲得するために、全学共通カリキュラムの基盤教育を実施する。また、獣医師、動物看護師として必要な倫理観や健全な生命観、使命感を養う。2 年では 2 学類で共通の専門基礎教育を展開することで、獣医療の基礎となる知識を共有すると共に多角的に物事を捉え学際的な視点を養う。専門教育科目、専修教育科目ではそれぞれの学類での専門知識・技術及び総合的な判断力を涵養すると共に自ら課題を探究し、その課題解決に対して幅広く、柔軟かつ総合的な判断力を涵養する。

獣医学類における獣医学教育（学士課程）では、新たな知の創造につながる獣医学専門教育を積み上げ、問題を解決する能力を養い、指導的な役割を果たしうる人材を育成する。研究や討論を実践的に積み上げる学生参加型の授業及び実習を充実し、教養と豊かな人間性、国際的感覚、強固な責任感と高い倫理性を取得する専修教育を実施する。

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を定めている。	3
	教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を示していない。	2
	教育課程の編成・実施方針を定めていない。	1

【評価の視点 2-4】教育課程の編成・実施方針を公表していること。

●基本情報：教育課程の編成・実施方針の公表方法を下欄に記入してください。

以下の方法にて、教育課程の編成・実施方針を公表している。

・本学ホームページ

<http://www.rakuno.ac.jp/outline/about/educationpolicy/p0101/p0103.html>

・履修ガイド

【自己評価 2-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	ウェブサイト及び大学案内等に掲載している。	3
○	ウェブサイトまたは大学案内等に掲載している。	2
	公表していない。	1

<教育課程の編成>

【評価の視点 2-5】教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程を体系的に編成していること。

【自己評価 2-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	教育課程の編成・実施方針に基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【評価の視点 2-6】モデル・コア・カリキュラムの内容を網羅した講義内容であること。

- 基本情報：貴獣医学教育組織のモデル・コア・カリキュラムに対応した講義科目に関する情報を記入してください。

<コア科目（講義科目）>

分野	科目	モデル・コア・カリキュラム	相当科目名	担当コマ数	担当教員	
					氏名	職名 *
導入基礎	1-1	獣医学概論	獣医療概論	4	及川 伸	専任
				1	浅川 満彦	兼任
				1	内田 英二	兼任
				3	北澤多喜雄	兼任
				1	上野 博史	専任
				1	蒔田 浩平	専任
				1	八百坂紀子	兼任
				1	郡山 尚紀	兼任
				1	田島 誉士	専任
				1	佐野 忠士	兼任
				1	高橋 優子	専任
	1-2	獣医倫理・動物福祉学	動物倫理・動物福祉学	15	高橋 優子	専任
	1-3	獣医事法規	獣医畜産法規	15	上野 弘志	専任
	1-4	解剖学	獣医解剖学 A	15	植田 弘美	専任
			獣医解剖学 B	15	植田 弘美	専任
	1-5	組織学	獣医組織学 B	15	竹花 一成	専任
			獣医組織学 A	8	竹花 一成	専任
	1-6	発生学	獣医組織学 A	7	美名口 順	専任
	1-7	生理学	獣医生理学総論	15	北村 浩	専任
			獣医生理学各論 A	8	北村 浩	専任
				7	林 英明	専任
			獣医生理学各論 B	15	翁長 武紀	専任
			栄養生理学	8	翁長 武紀	専任
				3	安井由美子	専任
	1-8	生化学	獣医生化学	15	岩野 英知	専任
	1-9	薬理学	獣医薬理学 A	16	寺岡 宏樹	専任
				14	北澤多喜雄	兼任
			獣医薬理学 B	9	寺岡 宏樹	専任
				6	北澤多喜雄	兼任
	1-10	動物遺伝育種学	分子遺伝学	15	岩野 英知	専任
	1-11	動物行動学	動物行動学	4	佐野 忠士	兼任
				7	郡山 尚紀	兼任
	1-12	実験動物学	実験動物学	15	大杉 剛生	専任

	1-13	放射線生物学	獣医核医学基礎	12	遠藤 大二	専任
				3	五十嵐寛高	専任
病 態	2-1	病理学	獣医病理学総論	15	松田 一哉	専任
					佐野 悠人	専任
			獣医病理学各論	15	松田 一哉	専任
					佐野 悠人	専任
	2-2	免疫学	病態免疫学	15	岡本 実	専任
	2-3	微生物学	獣医ウイルス学	15	萩原 克郎	専任
			獣医細菌学	15	内田 郁夫	専任
			獣医細菌病学	2	内田 郁夫	専任
	2-4	家禽疾病学	動物感染症学	4	桐澤 力雄	専任
				3	内田 郁夫	専任
			魚病学	4	平田 晴之	専任
	2-5	魚病学	魚病学	2	安井由美子	専任
				4	浦和 茂彦	兼任
				1	萩原 克郎	専任
				1	村田 亮	専任
	2-6	動物感染症学	動物感染症学	5	桐澤 力雄	専任
				2	内田 郁夫	専任
			獣医細菌病学	6	内田 郁夫	専任
			獣医ウイルス病学	15	桐澤 力雄	専任
	2-7	寄生虫病学	獣医寄生虫学	15	福本真一郎	専任
			獣医寄生虫病学	15	浅川 満彦	兼任
			魚病学	7	平田 晴之	専任
応 用	3-1	動物衛生学	動物衛生学総論	15	及川 伸	専任
					永幡 肇	専任
					樋口 豪紀	専任
					田村 豊	専任
					蒔田 浩平	専任
					高橋 優子	専任
			獣医衛生学	15	樋口 豪紀	専任
			ハードヘルス学	15	及川 伸	専任
					福森 理加	専任
	3-2	公衆衛生学総論	公衆衛生学総論	3	村松 康和	専任
				3	田村 豊	専任
				3	能田 淳	専任
				3	臼井 優	専任
				3	内田 玲麻	専任
	3-3	食品衛生学	食品衛生学	8	田村 豊	専任
				7	臼井 優	専任
	3-4	環境衛生学	環境衛生学	26	能田 淳	専任

臨 床				2	浅川 満彦	兼担
				2	澤本 卓治	兼担
	3-5	毒性学	毒性学	10	寺岡 宏樹	専任
				5	能田 淳	専任
	3-6	人獣共通感染症学	人獣共通感染症学	15	村松 康和	専任
	3-7	疫学	獣医疫学	15	蒔田 浩平	専任
	3-8	野生動物学	野生動物医学	15	浅川 満彦	兼担
	4-1	内科学総論	臨床学総論	8	前原 誠也	専任
				7	田島 蒼士	専任
	4-2	臨床病理学	臨床病理学 A	15	堀 泰智	専任
					川本 哲	専任
			臨床病理学 B	15	玉本 隆司	専任
					岡本 実	専任
	4-3	臨床薬理学	臨床薬理学	6	山下 和人	専任
				3	寺岡 宏樹	専任
				6	鈴木 一由	専任
臨 床	4-4	呼吸循環器病学	伴侶動物内科学各論 A	15	堀 泰智	専任
	4-5	消化器病学	伴侶動物内科学各論 B	8	玉本 隆司	専任
	4-6	泌尿生殖器病学	伴侶動物内科学各論 B	7	玉本 隆司	専任
	4-7	内分泌代謝病学	臨床病理学 B	7	玉本 隆司	専任
	4-8	臨床栄養学	栄養生理学	3	翁長 武紀	専任
				1	安井由美子	専任
	4-9	神経病学	伴侶動物外科学各論 A	5	上野 博史	専任
			伴侶動物外科学各論 B	2	上野 博史	専任
			産業動物外科学	1	川本 哲	専任
	4-10	血液免疫病学	臨床病理学 B	8	玉本 隆司	専任
	4-11	皮膚病学	伴侶動物内科学各論 C	5	前原 誠也	専任
	4-12	臨床行動学	動物行動学	1	佐野 忠士	兼担
				3	郡山 尚紀	兼担
	4-13	外科学総論	手術学総論	2	遠藤 能史	専任
				2	鈴木 一由	専任
			伴侶動物外科学各論 A	1	遠藤 能史	専任
			伴侶動物外科学各論 B	1	井坂 光宏	専任
			獣医麻酔疼痛管理学	1	山下 和人	専任
臨 床	4-14	手術学総論	手術学総論	3	廉澤 剛	専任
				3	鈴木 一由	専任
				3	上野 博史	専任
				3	遠藤 能史	専任

			3	井坂 光宏	専任
4-15	麻酔学	獣医麻酔疼痛管理学	15	山下 和人	専任
4-16	軟部組織外科学	伴侶動物外科学各論 B	4	廉澤 剛	専任
			2	遠藤 能史	専任
		伴侶動物外科学各論 C	10	廉澤 剛	専任
			5	遠藤 能史	専任
4-17	運動器病学	伴侶動物外科学各論 A	7	井坂 光宏	専任
		伴侶動物外科学各論 B	2	井坂 光宏	専任
4-18	臨床腫瘍学	獣医臨床腫瘍学	9	廉澤 剛	専任
			6	遠藤 能史	専任
4-19	眼科学	伴侶動物内科学各論 C	10	前原 誠也	専任
4-20	画像診断学	画像診断学 A	15	中出 哲也	専任
		画像診断学 B	6	中出 哲也	専任
			9	滝口 満喜	兼任
4-21	産業動物臨床学	産業動物臨床学 A	7	田島 誉士	専任
			3	小岩 政照	専任
			2	鈴木 一由	専任
			3	大塚 浩通	専任
		産業動物臨床学 B	5	加藤 敏英	専任
			4	大塚 浩通	専任
			3	川本 哲	専任
			3	及川 伸	専任
		産業動物外科学	4	田口 清	専任
			4	鈴木 一由	専任
			1	大塚 浩通	専任
			1	川本 哲	専任
		ハードヘルス学	3	及川 伸	専任
		馬・中小家畜臨床学	1	田島 誉士	専任
		臨床学総論	1	田島 誉士	専任
4-22	馬臨床学	馬・中小家畜臨床学	4	田島 誉士	専任
			4	椿下 早絵	兼任
		臨床学総論	1	田島 誉士	専任
		産業動物臨床学 A	1	田島 誉士	専任
4-23	臨床繁殖学	臨床繁殖学 A	15	中田 健	専任
		臨床繁殖学 B	15	中田 健	専任
		ハードヘルス学	2	及川 伸	専任
		産業動物外科学	1	鈴木 一由	専任

* 職名；専任、兼任、特任、臨床

【自己評価 2-6-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	モデル・コア・カリキュラムの講義内容に全て対応している。	4
○	モデル・コア・カリキュラムの講義内容におおむね対応している。	3
	モデル・コア・カリキュラムの講義内容に十分に対応していない。	2
	モデル・コア・カリキュラムの講義内容に対応していない。	1

【自己評価 2-6-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	全てのコア科目（講義）を専任教員が担当している。	4
○	9割以上のコア科目（講義）を専任教員が担当している。	3
	専任教員が8割以上のコア科目（講義）を担当し、兼任教員の担当が1割未満である。	2
	上記以外である。	1

【評価の視点 2-7】モデル・コア・カリキュラムの実習内容を実施していること。

- 基本情報：貴獣医学教育組織のモデル・コア・カリキュラムに対応した実習科目に関する情報を記入してください。

＜コア科目（実習科目）＞

分野	科目	モデル・コア ・カリキュラム	相当科目名	担当 コマ 数	担当教員	
					氏名	職名＊
基礎	1-1	解剖学実習	獣医解剖学実習	15	植田 弘美	専任
	1-2	組織学実習	獣医組織学実習	15	美名口 順	専任
					植田 弘美	専任
	1-3	生理学実習	獣医生理学実習 A	15	林 英明	専任
					北村 浩	専任
			獣医生理学実習 B	11	安井 由美子	専任
	7	翁長 武紀		専任		
	1-4	生化学実習	獣医生化学実習	15	岩野 英知	専任
					横田 博	専任
					藤木 純平	専任
1-5	薬理学実習	獣医薬理学実習	10	寺岡 宏樹	専任	
			6	北澤 多喜雄	専任	
1-6	実験動物学実習	実験動物学実習	15	大杉 剛生	専任	
病態	2-1	病理学実習	獣医病理学実習	15	松田 一哉	専任
					佐野 悠人	専任
			獣医免疫学実習	15	岡本 実	専任
					佐野 悠人	専任
	2-2	微生物学実習	獣医ウイルス病学実習	15	萩原 克郎	専任
					桐澤 力雄	専任
			獣医細菌病学実習	15	村田 亮	専任
				3	内田 郁夫	専任
2-3	寄生虫病学実習	獣医寄生虫病学実習	9	福本 真一郎	専任	
			7	浅川 満彦	専任	
応用	3-1	動物衛生学実習	獣医衛生学実習	15	樋口 豪紀	専任
			ハードヘルス学実習	15	及川 伸	専任
					福森 理加	専任
	3-2	公衆衛生学実習	人獣共通感染症学・獣医疫学実習	15	内田 玲麻	専任
			環境衛生学・毒性学実習	7	能田 淳	専任
3-3	食品衛生学実習	食品衛生学実習	13	臼井 優	専任	

				13	田村 豊	兼任
				2	能田 淳	専任
	3-4	毒性学実習	環境衛生・毒性学実習	8	能田 淳	専任
臨床	4-1	小動物内科学実習	伴侶動物内科学実習	9	前原 誠也	専任
				4	玉本 隆司	専任
				2	堀 泰智	専任
	4-2	小動物外科学実習	伴侶動物外科学実習	6	上野 博史	専任
					井坂 光宏	専任
				9	廉澤 剛	専任
					遠藤 能史	専任
			獣医麻酔疼痛管理学実習	15	山下 和人	専任
					三好 健二郎	専任
					佐野 忠士	兼任
	4-3	画像診断学実習	画像診断学実習	15	中出 哲也	専任
			獣医核医学基礎実習	15	遠藤 大二	専任
					五十嵐寛高	専任
			伴侶動物内科学実習	2	玉本 隆司	専任
	4-4	産業動物臨床実習	産業動物臨床実習 A	15	加藤 敏英	専任
					川本 哲	専任
					大塚 浩通	専任
					田島 誉士	専任
			産業動物臨床実習 B	15	鈴木 一由	専任
					加藤 敏英	専任
					川本 哲	専任
					大塚 浩通	専任
					田島 誉士	専任
	4-5	臨床繁殖学実習	臨床繁殖学	15	中田 健	専任
	4-6	総合参加型臨床実習	病院実習専修コース	15	森好 政晴	専任
					中出 哲也	専任
					廉澤 剛	専任
					山下 和人	専任
					上野 博史	専任
					井坂 光宏	専任
					堀 泰智	専任
					前原 誠也	専任

				三好 健二郎	専任
				遠藤 能史	専任
玉本 隆司	専任				
佐野 忠士	兼担				
五十嵐寛高	専任				
足立 真美	臨床				
伊藤 暁史	臨床				
堀 あい	臨床				
丹羽 昭博	臨床				
小岩 政照	専任				
田口 清	専任				
田島 誉士	専任				
鈴木 一由	専任				
加藤 敏英	専任				
川本 哲	専任				
大塚 浩通	専任				
中田 健	専任				
森好 政晴	専任				
佐藤 綾乃	臨床				
菅野 美樹夫	臨床				
クリニカルローテーション ョン	45	上野 博史	専任		
		井坂 光宏	専任		
		廉澤 剛	専任		
		遠藤 能史	専任		
		山下 和人	専任		
		三好 健二郎	専任		
		佐野 忠士	兼担		
		中出 哲也	専任		
		五十嵐寛高	専任		
		堀 泰智	専任		
		玉本 隆司	専任		
		足立 真美	臨床		
		伊藤 暁史	臨床		
		堀 あい	臨床		
		丹羽 昭博	臨床		
		小岩 政照	専任		
		田口 清	専任		
		加藤 敏英	専任		
		川本 哲	専任		

				大塚 浩通	専任
				田島 誉士	専任
				中田 健	専任
				森好 政晴	専任
				鈴木 一由	専任
				佐藤 綾乃	臨床
				菅野 美樹夫	臨床

* 職名；専任、兼担、兼任、特任、臨床

【自己評価 2-7】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	モデル・コア・カリキュラムの実習内容に全て対応している。	4
○	モデル・コア・カリキュラムの実習内容におおむね対応している。	3
	モデル・コア・カリキュラムの実習内容に十分に対応していない。	2
	モデル・コア・カリキュラムの実習内容に対応していない。	1

【評価の視点 2-8】教員の監督指導の下で適正に実習を実施していること。

- 基本情報：各実習担当の教員、T A（ティーチング・アシスタント）についての情報を記入してください。

実習科目名	受講者数**	教員数	T A の大学院学年 及び T A 数
獣医生化学実習 [獣 2 年]	160	3	D1 1 名
食品衛生学実習 [獣 3 年]	124	3	D3 1 名 D4 1 名
獣医麻酔疼痛管理学実習 [獣 3 年]	128	4	D2 1 名 D4 1 名
獣医ウイルス病学実習 [獣 3 年]	130	2	D4 2 名
獣医薬理学実習 [獣 3 年]	128	2	D1 3 名
食品衛生学実習 [獣 4 年]	134	3	D3 1 名 D4 1 名
獣医疫学実習 [獣 5 年]	134	2	D2 2 名 D4 2 名
予防衛生学実習 A [獣 5 年]	137	2	D1 1 名
予防衛生学実習 B [獣 5 年]	134	2	D1 1 名
動物生殖学実習 [獣 4 年]	141	2	D4 1 名
生産動物外科学実習 [獣 4 年]	135	1	D2 1 名
伴侶動物医療臨床実習 [獣 4 年]	134	11	D2 2 名 D3 1 名 D4 4 名
伴侶動物医療基礎実習 C [獣 4 年]	132	10	D2 1 名 D3 1 名 D4 3 名
研究発表 [獣 5 年]	1	1	D1 1 名
病院実習専修コース [獣 5 年]生産動物	12	8	D4 1 名
病院実習専修コース [獣 5 年]伴侶動物	81	10	D2 1 名 D4 1 名
生体機能・感染病理学演習 I [獣 6 年] (獣医生化学)	5	3	D1 1 名
生体機能・感染病理学演習 I [獣 5 年] (獣医生化学)	6	2	D1 1 名
生体機能・感染病理学演習 I [獣 6 年] (獣医組織学)	5	2	D2 1 名 D3 1 名
生体機能・感染病理学演習 I [獣 5 年] (獣医組織学)	5	2	D2 1 名 D3 1 名
生体機能・感染病理学演習 II [獣 6 年] (獣医生化学)	5	2	D1 1 名
生体機能・感染病理学演習 II [獣 6 年] (獣医組織学)	5	2	D2 1 名 D3 1 名
生体機能・感染病理学実習 [獣 6 年] (獣 医ウイルス学)	5	2	D4 2 名

生体機能・感染病理学実習 [獣5年] (獣医ウイルス学)	6	2	D4 2名
生体機能・感染病理学実習 [獣6年] (獣医生化学)	5	2	D1 1名
生体機能・感染病理学実習 [獣5年] (獣医生化学)	6	2	D1 1名
生体機能・感染病理学実習 [獣6年] (獣医組織学)	5	2	D2 1名 D3 1名
生体機能・感染病理学実習 [獣5年] (獣医組織学)	5	2	D2 1名 D3 1名
生体機能・感染病理学基礎実験 [獣6年] (獣医ウイルス学)	5	2	D4 2名
生体機能・感染病理学基礎実験 [獣5年] (獣医ウイルス学)	6	2	D4 2名
生体機能・感染病理学基礎実験 [獣6年] (獣医生化学)	5	2	D1 1名
生体機能・感染病理学基礎実験 [獣5年] (獣医生化学)	6	2	D1 1名
生体機能・感染病理学基礎実験 [獣6年] (獣医組織学)	5	2	D2 1名 D3 1名
生体機能・感染病理学基礎実験 [獣5年] (獣医組織学)	5	2	D2 1名 D3 1名
衛生・環境学演習 I [獣6年] (獣医衛生学)	7	2	D1 1名
衛生・環境学演習 I [獣5年] (獣医衛生学)	5	2	D1 1名
衛生・環境学演習 I [獣6年] (獣医疫学)	1	1	D2 2名 D4 2名
衛生・環境学演習 I [獣5年] (獣医疫学)	3	1	D2 2名 D4 2名
衛生・環境学演習 I [獣6年] (食品衛生学)	5	1	D3 1名 D4 1名
衛生・環境学演習 I [獣5年] (食品衛生学)	4	1	D3 1名 D4 1名
衛生・環境学演習 II [獣6年] (獣医衛生学)	7	2	D1 1名
衛生・環境学演習 II [獣6年] (獣医疫学)	1	1	D2 2名 D4 2名
衛生・環境学演習 II [獣5・6年] (食品衛生学)	5	1	D3 1名 D4 1名
衛生・環境学基礎実験 [獣6年] (獣医衛生学)	7	2	D1 1名
衛生・環境学基礎実験 [獣5年] (獣医衛生学)	5	2	D1 1名
衛生・環境学基礎実験 [獣6年] (獣医疫学)	1	1	D2 2名 D4 2名
衛生・環境学基礎実験 [獣5年] (獣医疫学)	3	1	D2 2名

			D4 2名
衛生・環境学基礎実験〔獣6年〕(食品衛生学)	5	1	D3 1名 D4 1名
衛生・環境学基礎実験〔獣5年〕(食品衛生学)	4	1	D3 1名 D4 1名
衛生・環境学実習〔獣6年〕(獣医衛生学)	7	2	D1 1名
衛生・環境学実習〔獣5年〕(獣医衛生学)	5	2	D1 1名
衛生・環境学実習〔獣6年〕(獣医疫学)	1	1	D2 2名 D4 2名
衛生・環境学実習〔獣5年〕(獣医疫学)	3	1	D2 2名 D4 2名
衛生・環境学実習〔獣6年〕(食品衛生学)	5	1	D3 1名 D4 1名
衛生・環境学実習〔獣5年〕(食品衛生学)	4	1	D3 1名 D4 1名
生産動物医療アドバンスコース〔獣6年〕	20	7	D4 1名
生産動物医療クリニカルローテーション〔獣5年〕	21	7	D4 1名
伴侶動物医療アドバンスコース〔獣6年〕	24	10	D2 2名 D3 1名 D4 4名
伴侶動物医療クリニカルローテーション〔獣5年〕	26	9	D2 2名 D3 1名 D4 4名

**受講生数：申請前年度の当該実習における受講生数

【自己評価 2-8】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されている。	4
○	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【評価の視点 2-9】講義と関連した実習を行う場合、それらが連動して行われていること。

●基本情報：実習科目とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

実習名	開講時期	関連講義名	開講時期
獣医解剖学実習	1 年後期	獣医解剖学 A	1 年前期
		獣医解剖学 B	1 年後期
獣医組織学実習	2 年前期	獣医組織学 A	1 年後期
		獣医組織学 B	2 年前期
獣医生理学実習 A	2 年前期	獣医生理学総論	1 年後期
		獣医生理学各論 A	2 年前期
獣医生理学実習 B	2 年後期	獣医生理学各論 B	2 年前期
		栄養生理学	2 年後期
獣医生化学実習	2 年後期	獣医生化学	1 年後期
		分子遺伝学	2 年前期
獣医薬理学実習	3 年前期	獣医薬理学 A	2 年後期
		獣医薬理学 B	3 年前期
獣医核医学基礎実習	2 年後期	獣医核医学基礎	2 年前期
獣医ウイルス病学実習	3 年前期	獣医ウイルス学	2 年前期
		獣医ウイルス病学	2 年後期
獣医細菌病学実習	3 年前期	獣医細菌学	2 年前期
		獣医細菌病学	2 年後期
獣医寄生虫病学実習	3 年後期	獣医寄生虫学	2 年後期
		獣医寄生虫病学	3 年前期
実験動物学実習	3 年後期	実験動物学	3 年前期
獣医病理学実習	3 年後期	獣医病理学総論	2 年後期
		獣医病理学各論	3 年前期
獣医免疫学実習	3 年前期	獣医免疫学	2 年後期
食品衛生学実習	3 年後期	食品衛生学	3 年後期
環境衛生・毒性学実習	4 年前期	環境衛生学	4 年前期
		毒性学	3 年後期
人獣共通感染症学・獣医疫学実習	4 年後期	人獣共通感染症学	4 年前期
		獣医疫学	4 年前期
獣医衛生学実習	4 年後期	獣医衛生学	4 年前期
ハードヘルス学実習	5 年前期	ハードヘルス学	5 年前期
産業動物臨床実習 A	4 年前期	産業動物臨床学 A	3 年後期
産業動物臨床実習 B	4 年後期	産業動物臨床学 B	4 年前期

臨床繁殖学実習	4 年前期	臨床繁殖学 A	4 年前期
伴侶動物内科学実習	3 年後期	伴侶動物内科学各論 A	3 年前期
		伴侶動物内科学各論 B	3 年前期
		伴侶動物内科学各論 C	3 年後期
獣医麻酔疼痛管理学実習	3 年後期	獣医麻酔疼痛管理学	3 年前期
伴侶動物外科学実習	4 年前期	伴侶動物外科学各論 A	4 年前期
		伴侶動物外科学各論 B	4 年後期
		伴侶動物外科学各論 C	5 年前期
画像診断学実習	5 年前期	画像診断学 A	4 年後期
		画像診断学 B	5 年前期
		臨床繁殖学 B	4 年後期

【自己評価 2-9】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

【評価の視点 2-10】 獣医師の資質を涵養する教育を行っていること。

●基本情報：獣医師の資質を涵養するための科目・事例の内容を記入してください。

獣医師の資質を涵養するための講義科目として、基盤教育において「キリスト教学Ⅰ（1 年前期必修 2 単位）」「キリスト教学Ⅱ（1 年後期必修 2 単位）」「キリスト教と生命倫理（2 年後期選択 2 単位）」、専門基礎教育において「動物倫理・動物福祉学（2 年前期必修 2 単位）」、専修教育において「統合獣医学（6 年後期 8 単位）」「獣医畜産法規（6 年後期 2 単位）」を設定している。

また、専修教育では、各専修コースにおいて「基礎実験（5 年後期～6 年前期選択必修 4 単位）」または「アドバンスドコース（5 年後期～6 年前期選択必修 5 単位）」を設定し、獣医学の各分野で研究や臨床活動を通じた実学教育によって動物の生命倫理と福祉に向き合わせ、獣医師の資質の涵養に勤めている。加えて、「学外実習（5 年前期～6 年前期選択 1 単位）」「研究発表（5 年前期～6 年後期選択 1 単位）」「病院実習専修コース（5 年後期～6 年前期選択 1 単位）」によって、学外での獣医学関連活動を通して獣医師の資質を涵養する機会を持てるようにしている。

【自己評価 2-10】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	獣医師の資質を涵養する教育を十分に行っている。	4
○	獣医師の資質を涵養する教育をおおむね行っている。	3
	獣医師の資質を涵養する教育が十分でない。	2
	獣医師の資質を涵養する教育がない。	1

【評価の視点 2-11】総合参加型臨床実習を実施する際は、学生に対し客観性のある適正な事前評価（共用試験）を実施していること。

●基本情報：総合参加型臨床実習の事前評価に関する情報を記入してください。

総合参加型臨床実習		共用試験	
		CBT	OSCE
単位数	開講時期	受験時期	受験時期
必修 3 単位	斉一教育 5 年前期	4 年 2 月	4 年 2 月
選択 1 単位	斉一教育 5 年後期		
選択必修 5 単位	専修教育 5 年後期		
選択必修 5 単位	専修教育 6 年前期		

●CBT と OSCE について特記すべき事項があれば記入してください。

受験学生が自主的に学習するための vetCBT e ラーニングシステムを獣医学類で構築し、学生に提供している。また、vetOSCE 実施の 1 ヶ月前にスキルスラボを開設し、受験学生が自主的にトレーニングできるようにしている。

【自己評価 2-11】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	客観性がある適正な事前評価（共用試験）を実施している。	3
	共用試験は実施していないが、それを補完する方法で客観的な事前評価を実施している。	2
	事前評価を実施していない。	1

●総合参加型臨床実習を学生が受講するにあたり、共用試験を補完する客観的な事前評価を実施している場合は、資料を添付し、事前評価法の詳細を記述してください。

総合参加型臨床実習を受講する学生の事前評価は、獣医学共用試験で実施している。

【評価の視点 2-12】モデル・コア・カリキュラムの内容に従い実践的能力を涵養する総合参加型臨床実習を実施していること。

●基本情報：総合参加型臨床実習に関する情報を記入してください。

モデル・コア・カリキュラムの項目	相当 単位 数	受講 者数 *	実習場所	教員数				
				専任 教員	臨床 教員	特任 教員	兼担 教員	兼任 教員
基本的診療技能の修得	必修 7 単位	136	B2 号館第 6 実験室 B1 号館小動物手術実習室 動物医療センター本館、臨床講義棟	19	0	0	1	0
臨床例による診断技能の修得（小動物） -2019 年度開講	必修 2 単位	0	動物医療センター本館、臨床獣医学教育研究棟	11	4	0	1	0
臨床例による診療技能の修得（産業動物） -2019 年度開講	必修 1 単位	0	動物医療センター本館	9	2	0	0	0
臨床例による診断技能の修得（小動物） -2017, 2018 年度開講	必修 1 単位	81	動物医療センター本館、臨床獣医学教育研究棟	11	4	0	1	0
臨床例による診療技能の修得（産業動物） -2017, 2018 年度開講		53	動物医療センター本館 NOSAI オホーツク	12	2	0	0	0

*受講生数：申請の前年度における受講生数

【自己評価 2-12】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	モデル・コア・カリキュラムに従った総合参加型臨床実習を実施している。	4
	モデル・コア・カリキュラムに従った総合参加型臨床実習をおおむね実施している。	3
	モデル・コア・カリキュラムに従った総合参加型臨床実習を十分に実施していない。	2
	モデル・コア・カリキュラムに従った総合参加型臨床実習を実施していない。	1

【評価の視点 2-13】 動物死体を活用した解剖学教育を適正に実施していること。

●基本情報：解剖学実習で使用した動物死体について、申請前年度までの5年間の情報を記入してください。

開講年度	授業科目	開講時期	受講生数	小動物（数）			産業動物（数）				鳥類（数）	
				犬	猫	その他	牛	馬	豚	その他	鶏	その他
2016	獣医解剖学実習	1年後期	145	2	0	0	15	0	1	0	0	0
2015	獣医解剖学実習	1年後期	130	2	0	0	16	0	2	0	0	0
2014	獣医解剖学実習	2年前期	143	2	0	0	16	0	0	0	0	0
2013	獣医解剖学実習	2年前期	134	12	0	0	20	0	0	0	0	0
2012	獣医解剖学実習	2年前期	152	12	0	0	20	0	0	0	0	0
合計			704	30			90				0	
受講生数合計／動物数合計				23.5			7.8				0	

●基本情報：上の表で「その他」にあげた動物についての情報を記入してください。

該当なし

【自己評価 2-13】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	適正な割合（受講生数／動物数）*で、各カテゴリー**で少なくとも1つの動物種について実習を実施している。	4
	適正な割合（受講生数／動物数）で、3つのうち2つのカテゴリーで少なくとも1つの動物種について実習を実施している、もしくは適正な割合（受講生数／動物数）ではないが、各カテゴリーで少なくとも1つの動物種について実習を実施している。	3
○	適正な割合（受講生数／動物数）ではないが、3つのうち2つのカテゴリーで少なくとも1つの動物種について実習を実施している。	2
	上記以外である。	1

*適正な割合：小動物 10 名以下、産業動物 20 名以下、鳥類 5 名以下（受講生数／動物数）

**カテゴリー：小動物、産業動物、鳥類

【評価の視点 2-14】 動物死体を活用した病理学教育を適正に実施していること。

●基本情報：病理学実習で使用した動物について、申請以前5年間の情報を記入してください。

開講年度	授業科目	開講時期	受講生数	小動物			産業動物				鳥類	
				犬	猫	その他*	牛	馬	豚	その他*	鶏	その他*
2016	獣医病理学実習	3年後期	134	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2016	感染病理学実習	5・6年	16	12	0	24	70	222	2	21	0	1
2015	獣医病理学実習	3年後期	138	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2015	感染病理学実習	5・6年	18	15	4	128	39	189	5	22	0	2
2014	獣医病理学実習	3年後期	130	0	0	0	0	0	0	24	0	0
2014	感染病理学実習	5・6年	17	18	2	0	57	225	0	20	0	5
2013	獣医病理学実習	3年後期	145	0	0	0	4	0	0	0	0	0
2013	感染病理学実習	5・6年	15	9	5	0	58	230	1	19	0	0
2012	獣医病理学実習	3年後期	152	0	0	0	4	0	0	0	0	0
2012	感染病理学実習	5・6年	17	14	2	0	63	205	1	22	0	1
合計			782	233			1,503				9	
受講生数合計／動物数合計				3.4			0.5				86.9	

●基本情報：上の表で「その他」にあげた動物種について記入してください。

開講年度	授業科目	開講時期	受講生数	動物種	動物数	受講生数／動物数
2014	獣医病理学実習	3年後期	130	シカ	24	5.4

【自己評価 2-14】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	適正な割合（受講生数／動物数）*で、各カテゴリー**で少なくとも1つの動物について実習を実施している。	4
○	適正な割合（受講生数／動物数）で、3つのうち2つのカテゴリーで少なくとも1つの動物種について実習を実施している、もしくは適正な割合（受講生数／動物数）ではないが、各カテゴリーで少なくとも1つの動物種について実習を実施している。	3
	適正な割合（受講生数／動物数）ではないが、3つのうち2つのカテゴリーで少なくとも1つの動物種について実習を実施している。	2
	上記以外である。	1

*適正な割合：小動物 20 名以下、産業動物 30 名以下、鳥類 10 名以下

**カテゴリー：小動物、産業動物、鳥類

【評価の視点 2-15】 獣医学教育（学士課程）の目的や社会的要求に応じたアドバンス講義科目を開講しているか。

●基本情報：アドバンス科目に関する情報を記入してください。

科目名	単位数	開講学年	教員名		
			専任	兼任・特任・臨床	兼任 (所属)
統合獣医学（必修）	8	6	岩野 英知 遠藤 大二 翁長 武紀 北村 浩 寺岡 宏樹 植田 弘美 美名口 順 桐澤 力雄 内田 郁夫 福本 真一郎 岡本 実 平田 晴之 松田 一哉 村田 亮 及川 伸 樋口 豪紀 永幡 肇 田村 豊 村松 康和 臼井 優 能田 淳 蒔田 浩平 高橋優子 山下 和人 上野 博史 廉澤 剛 中出 哲也 前原 誠也 井坂 光宏 堀 泰智 遠藤 能史 三好健二郎 玉本 隆司 中田 健 鈴木 一由 小岩政照 大塚浩通 川本 哲 森好 政晴	北澤多喜雄	
獣医畜産法規（必修）	2	6 年	上野 弘志		
中獣医学（選択）	2	6 年	及川 伸 福森 理加		岩西 正雄 （ひょうたん山動物 医療センター）

					山内 健志 (スノウメープルク リニック)
病院実習専修コース (選択)	1	5 年または 6 年	山下 和人 上野 博史 廉澤 剛 中出 哲也 前原 誠也 井坂 光宏 堀 泰智 遠藤 能史 三好健二郎 玉本 隆司 五十嵐寛高 中田 健 田島 誉士 小岩 政照 田口 清 加藤 敏英 鈴木 一由 大塚浩通 川本 哲 森好 政晴	佐野 忠士 (兼担) 足立 真美 (臨床) 伊藤 暁史 (臨床) 丹羽 昭博 (臨床) 堀 あい (臨床) 佐藤 綾乃 (臨床) 菅野 美樹夫 (臨床)	
生体機能学演習 生体機能学特論 生体機能学実験 生体機能学基礎実験 (選択必修)	2 2 2 4	5 年 6 年	竹花 一成 岩野 英知 遠藤 大二 翁長 武紀 北村 浩 寺岡 宏樹 横田 博 植田 弘美 林 英明 安井 由美子 美名口 順 藤木 純平		
感染病理学演習 感染病理学特論 感染病理学実験 感染病理学基礎実験 (選択必修)	2 2 2 4	5 年 6 年	桐澤 力雄 内田 郁夫 大杉 剛生 萩原 克郎 福本 真一郎 岡本 実 平田 晴之 松田 一哉 村田 亮 佐野 悠人		
衛生環境学演習 衛生環境学特論 衛生環境学実験 衛生環境学基礎実験 (選択必修)	2 2 2 4	5 年 6 年	及川 伸 田村 豊 永幡 肇 樋口 豪紀 村松 康和 上野 弘志 臼井 優		

			高橋 優子 能田 淳 蒔田 浩平 内田 玲麻 福森 理加		
伴侶動物医療クリニ カルローテーション (選択必修)	5	5 年	山下 和人 上野 博史 廉澤 剛 中出 哲也 前原 誠也 井坂 光宏 堀 泰智 遠藤 能史 三好健二郎 玉本 隆司 五十嵐寛高	佐野 忠士 (兼担) 足立 真美 (臨床) 伊藤 暁史 (臨床) 丹羽 昭博 (臨床) 堀 あい (臨床)	
生産動物医療クリニ カルローテーション (選択必修)	5	5 年	中田 健 田島 誉士 小岩 政照 田口 清 加藤 敏英 鈴木 一由 大塚浩通 川本 哲 森好 政晴	佐藤 綾乃 (臨床) 菅野 美樹夫 (臨床)	
伴侶動物医療アドバ ンスドコース (選択必修)	5	6 年	山下 和人 上野 博史 廉澤 剛 中出 哲也 前原 誠也 井坂 光宏 堀 泰智 遠藤 能史 三好健二郎 玉本 隆司 五十嵐寛高	佐野 忠士 (兼担) 足立 真美 (臨床) 伊藤 暁史 (臨床) 丹羽 昭博 (臨床) 堀 あい (臨床)	
生産動物医療アドバ ンスドコース (選択必修)	5	6 年	中田 健 田島 誉士 小岩 政照 田口 清 加藤 敏英 鈴木 一由 大塚浩通 川本 哲 森好 政晴	佐藤 綾乃 (臨床) 菅野 美樹夫 (臨床)	

● アドバンス科目について特記するところがあれば、記入してください（任意）。

専修教育 5 年後期において、タイのカセサート大学との単位互換制度を実施している。

【評価の視点 2-16】 特別研究（卒業研究）を実施していること。

●基本情報：卒業研究の実施状況を記入してください。

申請前年度の実施状況を記入してください。

単位数	4 単位または 5 単位（選択した専修コースによる）
開始時期	5 年後期と 6 年前期、または 6 年前期（選択した専修コースによる）
卒研発表会時期（月）	6 年前期終了時点（7～9 月：選択した専修コースによる）
評価*	段階評価
備考	

*評価：合否評価、段階評価（優、良、可、不可）、その他

【自己評価 2-16】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	特色のある特別研究（卒業研究）を実施している。	4
○	特別研究（卒業研究）を実施している。	3
	特別研究（卒業研究）を実施しているが内容的に不十分である。	2
	特別研究（卒業研究）を実施していない。	1

【評価の視点 2-17】 適切な実地研修（インターンシップ）を実施しているか。

●基本情報：申請以前 5 年間の実地研修（インターンシップ）実施に関する情報を記入してください。また、実地研修の派遣先を記入してください。

年度	単位化の有無	学年	科目名	単位数	実施時期	人数
2016	有	5, 6 年	学外実習	1	夏・春季休業中	51
2016	無	1～5 年	—	—	夏・春季休業中	33
2015	有	4, 5 年	学外実習	1	夏・春季休業中	46
2015	無	1～5 年	—	—	夏・春季休業中	23

2014	有	5, 6 年	学外実習	1	夏・春季休業中	5
2014	無	3 年	—	—	夏・春季休業中	17
2013	有	4～6 年	学外実習	1	夏・春季休業中	11
2013	無	2～5 年	—	—	夏・春季休業中	17
2012	有	5 年	学外実習	1	夏季休業中	1
2012	無	1～5 年	—	—	夏・春季休業中	25

実地研修における派遣先は以下のとおりである。

官庁、都道府県（農林水産省、北海道、宮城県、岩手県、山形県、長野県、東京都、静岡県、大阪府、広島県、高知県、愛媛県、徳島県、美深町、等（家畜保健衛生所、保健福祉事務所、食肉衛生検査所 等）

NOSAI（北海道、秋田、岩手、宮城、新潟、石川、静岡、岡山、山口、南大島、沖縄 等）

水族館・動物園等（小樽水族館、札幌円山動物園、大牟田市動物園、羽村市動物園、千葉市動物園、姫路市動物園、江戸川区自然動物園、ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 等）

他大学・企業等（麻布大学、日本中央競馬会、㈱野生動物保護管理事務所、日本全薬工業㈱ 等）

【自己評価 2-17】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	実地研修を必修科目として単位化し、実施している。	4
○	実地研修を選択科目として単位化し、実施している。	3
	実地研修を科目として置いていないが、参加者を支援している。	2
	実地研修を科目として置かず、かつ実地研修に関する支援も実施していない。	1

<教育方法>

【評価の視点 2-18】学生が授業科目を体系的に履修できるよう、履修指導を適切に行うとともに、カリキュラムツリー又はカリキュラムマップなどを整備していること。

- 基本情報：学生が授業科目を体系的に履修できるよう、カリキュラムツリー又はカリキュラムマップなどを作成している場合、提出してください。

【自己評価 2-18】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	カリキュラムツリー、カリキュラムマップなどを作成して履修指導を適切に行っている。	3
○	カリキュラムツリー、カリキュラムマップなどは作成していないが履修指導は行っている。	2
	カリキュラムツリー、カリキュラムマップなどを作成せず、かつ履修指導も行っていない。	1

【評価の視点 2-19】シラバスにおいて、授業科目ごとに全体目標、授業概要、成績評価基準・方法等を明示していること。

- 基本情報：シラバスを提出してください。

【自己評価 2-19】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。 または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【評価の視点 2-20】 シラバスの記載内容を改善する仕組みがあること。

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	シラバスチェック
	委員構成等	教育センター長は、各カリキュラム責任者（基盤教育主任、各学類長、研究科長）をシラバス責任者として委任する。
	改善の仕組みの 実際	シラバス責任者はシラバス内容を確認し、結果を報告する。教育センター長から科目代表教員に改善を指示する。代表教員は修正結果を教育センター長とシラバス責任者に報告する。

【自己評価 2-20】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

【評価の視点 2-21】 厳格かつ適正な成績評価及び単位認定を行っていること。

●基本情報：成績分布表を提出してください。

【自己評価 2-21】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	厳格かつ適正な成績評価及び単位認定を行っている。	3
	厳格かつ適正な成績評価及び単位認定をおおむね行っている。	2
	成績評価及び単位認定が厳格かつ適正ではない。	1

【評価の視点 2-22】成績評価に対しての学生からの異議申立制度を整備していること。

●基本情報：異議申立制度について記入してください。

異議申立制度の内容	成績開示日より1週間の期間を設け、成績評価に関する問合せを受け付けている。問合せ希望の場合は、指定様式により教務1課へ提出（FAX可）、担当教員の回答を教務1課より学生へ連絡。
-----------	--

【自己評価 2-22】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	異議申立制度を整備している。	3
	異議申立制度はあるが、十分な制度でない。	2
	異議申立制度を整備していない。	1

【評価の視点 2-23】適切な進級要件を設定し、学生に周知していること。

●基本情報：進級要件を設定している場合、適切な進級要件を示す資料を提出してください。

●基本情報：進級要件について記入してください。

進級要件	1年終了時：必修科目、選択科目を合わせて30単位以上修得 2年終了時：基盤教育は必修科目を含め、卒業要件32単位以上修得。専門基礎教育・専門教育は2年までに開講する全ての必修科目のうち40単位以上修得 3年終了時：専門基礎教育・専門教育の3年までに開講する全ての必修科目のうち83単位以上修得 4年終了時：専門基礎教育・専門教育の4年までに開講する全ての必修科目のうち122単位以上修得 5年終了時：専門基礎教育・専門教育の5年までに開講する全ての必修科目のうち141単位以上修得
------	--

【自己評価 2-23】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適切な進級要件を設定し、学生に周知している。	3
	適切な進級要件を設定しているが、学生に十分周知していない。	2
	進級要件が適切でない。または学生に周知していない。	1
	進級要件を設定していない。	非該当

【評価の視点 2-24】適切な卒業要件を設定し、学生に周知していること。

●基本情報：卒業要件を示す資料を提出してください。

●基本情報：卒業要件について記入してください。

卒業要件	・ 基盤教育は酪農学園教育 6 単位以上、人文社会科学教育 4 単位以上、自然科学教育 6 単位以上、保健体育教育 1 単位以上、情報教育 2 単位以上、外国語教育 8 単位以上、導入教育 1 単位以上の合計 32 単位以上を修得しなければならない。 ・ 専門基礎教育は、学群共通専門基礎科目 2 単位を修得しなければならない。 ・ 専門教育は、生体機能学分野 37 単位、感染・病理学分野 30 単位、衛生・環境学分野 27 単位、生産動物医療学分野 15 単位、伴侶動物医療学分野 38 単位、合計 147 単位を修得しなければならない。 ・ 専修教育は、専修教育共通科目 12 単位以上、専修教育コース別科目 10 単位、合計 22 単位以上を修得しなければならない。 ・ 卒業に必要な単位数は 207 単位以上である。各科目区分の修得すべき単位数の合計は 203 単位なので、さらに全科目区分から 4 単位以上を修得しなければならない。
------	--

【自己評価 2-24】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適切な卒業要件を設定し、学生に周知している。	3
	適切な卒業要件を設定しているが、学生に十分周知していない。	2
	卒業要件が適切でない。または学生に周知していない。	1

※ 評価の視点 2-1～27 に関する自己点検・評価の概要・長所・問題点を箇条書きなどで簡潔に記載してください。

評価の視点 2-1

- ・ 自己点検・評価の概要：獣医学教育（学士課程）の目的に基づき、修得すべき知識・技能・態度など獣医学（学士）の学位にふさわしい学位授与方針を定めている。
- ・ 長所：建学の精神に基づいた学位授与方針を設定している。

評価の視点 2-2

- ・ 自己点検・評価の概要：学位授与方針については、大学ホームページ及び履修ガイドにより公表しているが、大学案内には掲載していない。
- ・ 長所：建学の精神に基づいた学位授与方針を設定し、公表している。
- ・ 問題点：大学案内に掲載していないこと。

評価の視点 2-3

- ・ **自己点検・評価の概要**：教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を定め、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を定めている。概ね評価の視点を満たすレベルであり、基準を満たしている。
- ・ **長所**：建学の精神に基づいて設定した学位授与方針に沿った教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を示した教育課程の編成・実施方針を定めている。

評価の視点 2-4

- ・ **自己点検・評価の概要**：教育課程の編成・実施方針については、大学ホームページ及び履修ガイドにより公表しているが、大学案内には掲載していない。
- ・ **長所**：建学の精神に基づいて設定した教育課程の編成・実施方針を公表している。
- ・ **問題点**：大学案内に掲載していないこと。

評価の視点 2-5

- ・ **自己点検・評価の概要**：教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程を体系的に編成している。
- ・ **長所**：建学の精神に基づいて設定した教育課程の編成・実施方針に沿った基盤教育、専門基礎教育、専門教育及び専修教育で構成する体系的教育課程を編成している。
- ・ **問題点**：現状でのベストの教育課程を体系的に編成しているが、国際化等に対応するため、さらなる改善が必要と考えられる。

評価の視点 2-6

- ・ **自己点検・評価の概要**：概ねモデル・コア・カリキュラムの内容を網羅した講義内容となっており、その9割以上を専任教員が担当している。
- ・ **長所**：生産動物医療に重点を置きながらも、伴侶動物医療や公衆衛生のモデル・コア・カリキュラムにも対応した幅広い講義内容となっている。
- ・ **問題点**：モデル・コア・カリキュラムの到達目標はほぼ網羅されているが、ごく一部の到達目標に関して対応できていない。

評価の視点 2-7

- ・ **自己点検・評価の概要**：概ねモデル・コア・カリキュラムを網羅した実習内容となっている。
- ・ **長所**：建学の精神の一つである実学教育を基本に、生産動物医療に重点を置きながらも、伴侶動物医療や公衆衛生のモデル・コア・カリキュラムにも対応した幅広い実習内容となっている。
- ・ **問題点**：モデル・コア・カリキュラムの一般目標はほぼ網羅されているが、一部に対応できていない到達目標がある。

評価の視点 2-8

- ・ **自己点検・評価の概要**：TAは、全大学院生37人中25人が従事し（2017年5月現在）、多くの院生が指導教員の下で実習補助、学生指導等を学べる機会を提供している。
- ・ **長所**：多くの院生が獣医学教育学士課程に参加し、将来の教育者育成に役立っている。
- ・ **問題点**：分野によっては、TAとして十分な大学院生を確保できていない。

評価の視点 2-9

- ・ **自己点検・評価の概要**：関連する講義と実習が連動する年次配当としている。
- ・ **長所**：建学の精神の一つである実学教育として、生産動物医療に重点を置きながらも、伴侶動物医療や公衆衛生のモデル・コア・カリキュラムにも対応した幅広い実習内容が効率よく実施されるように、講義科目が連動して年次配置されている。
- ・ **問題点**：カリキュラム改訂の時期によっては、留年した学生に対する対応に苦慮する場合がある。

評価の視点 2-10

- ・ **自己点検・評価の概要**：建学の精神に基づき、人格と獣医師の資質を涵養する教育を行っている。
- ・ **長所**：建学の精神である三愛精神・健土健民・実学教育に基づき、キリスト教教育を基本とした動物倫理教育、さらには、生産動物医療学、伴侶動物医療学、衛生環境学、感染病理学及び生体機能学といった獣医学の各分野において実学教育で動物の生命倫理と向き合わせ、獣医師の資質の涵養に勤めている。
- ・ **問題点**：5年～6年の専修教育では、学生が所属する分野（生体機能学分野、感染病理学分野、衛生環境学分野、生産動物医療学分野、伴侶動物医療学分野）において、その専門分野に応じたアドバンス教育を実施している。ほとんどの学生は、本人が希望する将来の進路に応じた分野に所属しており、希望する専門分野で獣医師の資質を涵養する獣医学教育を受けている。しかしながら、ごく一部の学生ではその希望を叶えられない場合がある。

評価の視点 2-11

- ・ **自己点検・評価の概要**：総合参加型臨床実習を実施する前年に、学生は獣医学共用試験を受験し、客観性のある適正な事前評価を受けている。
- ・ **長所**：獣医学共用試験によって、他の獣医系大学と共通の評価を実施している。
- ・ **問題点**：本学は私学であり、獣医学共用試験の受験学生の人数が多く、とくに vetOSCE では獣医学類教員の他、獣医保健看護学類、動物医療センター職員（研修医、動物看護師、薬剤部、事務）、大学事務職員など、多くの人員の協力が必要である。

評価の視点 2-12

- ・ **自己点検・評価の概要**：モデル・コア・カリキュラムの内容に従い実践的能力を涵養する総合参加型臨床実習を実施している。
- ・ **長所**：本学の特徴である動物医療センターにおける充実した生産動物及び伴侶動物の診療件数を総合参加型臨床実習に活用し、生産動物ならび伴侶動物についてバランスよく臨床教育を展開できている。
- ・ **問題点**：現在、新カリキュラムへの移行中であり、本格的な総合参加型臨床実習は2019年度から始まる。

評価の視点 2-13

- ・ **自己点検・評価の概要**：動物死体を活用した解剖学教育を概ね適正に実施している。
- ・ **長所**：本学の特徴である生産動物の獣医学教育、とくに牛については充実した解剖学教育を展開している。
- ・ **問題点**：犬と牛以外の動物種の解剖数が不足している。

評価の視点 2-14

- ・ **自己点検・評価の概要**：動物死体を活用した病理学教育は適正に実施されていない。
- ・ **長所**：本学の特徴である生産動物臨床、とくに牛については充実した臨床病理解剖例がある（年間約 100 例）。
- ・ **問題点**：長所で記載した病理解剖は、専修教育で利用されているものの、斉一教育での獣医学教育には利用されていない。斉一教育での動物の死体を活用した病理学教育が不足している。

評価の視点 2-15

- ・ **自己点検・評価の概要**：獣医学教育（学士課程）の目的や社会的要求に応じたアドバンス講義科目（統合講義、獣医畜産法規、中獣医学）を開講している。加えて、専修教育で学生が所属する各分野において、その専門性に応じたアドバンス教育を実学として実施している。また、選択科目として病院実習専修コースを設定し、5 年前期の参加型臨床実習に加えてアドバンスとしての参加型臨床実習を受講できる。
- ・ **長所**：実学教育としてのアドバンス教育を実施している。また、アドバンス教育において、タイのカセサート大学との単位互換制度を実施している。
- ・ **問題点**：ほとんどの学生は、本人が希望する将来の進路に応じた分野に所属しており、希望する専門分野でアドバンス教育を受けている。しかしながら、ごく一部の学生では希望以外の専門分野でアドバンス教育を受ける場合がある。

評価の視点 2-16

- ・ **自己点検・評価の概要**：すべての学生に対して特別研究（卒業研究）を実施している。
- ・ **長所**：ほとんどの学生は、本人が希望する将来の進路に応じた分野に所属しており、希望する専門分野でアドバンス教育を受け、特別研究（卒業研究）を実施している。
- ・ **問題点**：ごく一部の学生では、その希望以外の専門分野でアドバンス教育を受け、特別研究（卒業研究）を実施している場合がある。

評価の視点 2-17

- ・ **自己点検・評価の概要**：適切な実地研修（インターンシップ）を実施している。
- ・ **長所**：実地研修は選択科目として単位化して実施している。単位取得を目的とせず実地研修にいく学生も多く、その場合はインターンシップとして参加する学生を支援している。単位取得を希望する学生には、実地研修前に学類長との面談または所定のガイダンスへの出席を課し、実習先での心構え等の事前教育を実施している。これは本学の特色ある取り組みとして評価できるレベルである。
- ・ **問題点**：ごく一部の学生では、その希望以外の専門分野でアドバンス教育を受け、特別研究（卒業研究）を実施している場合がある。

評価の視点 2-18

- ・ **自己点検・評価の概要**：履修指導は適切に行っているが、カリキュラムツリー、カリキュラムマップは作成していない。現在、カリキュラムマップの作成を検討中である。
- ・ **長所**：履修指導は、獣医学類教務担当教員と獣医学類教務担当事務職員が密に連携して行っている。
- ・ **問題点**：カリキュラムツリー、カリキュラムマップを作成していないこと。

評価の視点 2-19

- ・ **自己点検・評価の概要**：シラバスにおいて、授業科目ごとに全体目標、授業概要、成績評価基準・方法等を明示しており、評価の視点の基準を満たしている。
- ・ **長所**：シラバスは、インターネットを通じて学外からも内容を確認できるようになっている。

評価の視点 2-20

- ・ **自己点検・評価の概要**：シラバスの記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの委細内容の改善を実施しており、評価の視点の基準を満たしている。
- ・ **長所**：シラバスを改善する取り組みとして、シラバス責任者を任命し、シラバスチェックを行っている。また、シラバスの修正変更は、インターネットを通じて学外からでも実施できるようになっている。

評価の視点 2-21

- ・ **自己点検・評価の概要**：成績は定期試験及び平常点等で評価され、その方法は各授業のシラバスに明記している。授業出席時間により受験資格を定め、試験の評価は S、A、B、C、D 及び P、F により表示し、受験資格のないものは×としている。評価の視点を満たすレベルであり、基準を満たしている。
- ・ **長所**：成績評価により GPA 制度を導入しており、獣医師国家試験及び獣医学共用試験等の結果の分析に利用されている。

評価の視点 2-22

- ・ **自己点検・評価の概要**：成績評価に対する異議申立制度は、成績公開時毎に学生に周知し、成績公開日より 1 週間の期限で受け付け、適切に運用されている。評価の視点を満たすレベルであり、基準を満たしている。
- ・ **長所**：学生が成績評価に対して異議申し立てをできる十分な期限を設けている。

評価の視点 2-23

- ・ **自己点検・評価の概要**：進級要件は大学ホームページ及び履修ガイドに記載し、入学時や各種ガイダンス、教員・事務職員による履修指導、修学指導時においても適切に周知している。評価の視点を満たすレベルであり、基準を満たしている。
- ・ **長所**：進級要件として、獣医学共用試験の合格は設定していないことから、獣医学共用試験に不合格でも所定の単位数を修得していれば 5 年に進級でき、留年することなく翌年に獣医学共用試験に再チャレンジできる。

評価の視点 2-24

- ・ **自己点検・評価の概要**：卒業要件は大学ホームページ及び履修ガイドに記載し、入学時や各種ガイダンス、教員・事務職員による履修指導、修学指導時においても適切に周知している。評価の視点を満たすレベルであり、基準を満たしている。
- ・ **長所**：学生に対して様々な方法で卒業要件を周知している。

評価の視点 2-25, 2-26, 2-27：本学は該当しない。

(2) 学習成果

<学習成果の測定>

【評価の視点 2-28】 学位授与方針に示した知識、技能、態度等の学生の学習成果の修得状況を把握し、評価していること

●基本情報：学生の学習成果の修得状況を把握・評価している方法について記入してください。

以下の方法によって、学位授与方針に示した知識、技能、態度等の学生の学習成果の修得状況を把握し、評価している。

- ・ 獣医学共用試験：4年後期に参加型臨床実習に要求される知識、技能、態度の評価
- ・ 研究論文作成提出と研究成果の口頭発表：6年前期に学生が所属する各分野の専修教育で実施される「基礎実験（4単位）」または「アドバンスドコース（5単位）」における研究論文の作成提出と研究成果の口頭発表による学位授与方針に示した知識、技能、態度等の学生の学習成果の修得状況の把握と評価
- ・ 統合講義試験：6年後期にすべての学生が受講する「統合講義（8単位）」における期末試験による学位授与方針に示した知識の学生の学習成果の修得状況の把握と評価

【自己評価 2-28】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	学生の学習成果の把握・評価方法があり、かつ、それをもとにした教育改善が行われている。	4
○	学生の学習成果の把握・評価方法あるが、それをもとにした教育改善は行われていない。	3
	学生の学習成果の把握・評価方法がない。	2

② 国家試験、卒後の進路

【評価の視点 2-29】 新卒者の獣医師国家試験の合格率が80%以上であること。

●基本情報：申請前年度までの5年間に行われた獣医師国家試験における新卒者の合格状況に関する情報を記入してください。

年度	受験者数(A)	合格者数(B)	合格率 (B/A × 100 %)
2016	138	124	89.9
2015	146	125	85.6
2014	128	117	91.4
2013	125	121	96.8
2012	141	121	85.8

【自己評価 2-29】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	申請前年度までの5年間に行われた獣医師国家試験において、合格率80%以上である年度が5回であった。	4
	申請前年度までの5年間に行われた獣医師国家試験において、合格率80%以上である年度が4回であった。	3
	申請前年度までの5年間に行われた獣医師国家試験において、合格率80%以上である年度が3回であった。	2
	申請前年度までの5年間に行われた獣医師国家試験において、合格率80%以上である年度が2回以下であった。	1

【評価の視点 2-30】卒業生の進路状況・活躍状況を把握していること。

●基本情報：卒業生の進路状況・活躍状況を把握する仕組みについて記入してください。

卒業生アンケート調査の実施（郵送）を実施し、毎年、卒業生の進路状況・活躍状況を把握している。

【自己評価 2-30】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	卒業生の進路状況・活躍状況を把握する仕組みがあり、把握が行われている。	3
○	卒業生の進路状況・活躍状況を把握する仕組みはあるが、十分には機能していない。	2
	卒業生の進路状況・活躍状況を把握する仕組みがない。	1

【評価の視点 2-31】獣医師国家試験合格者の進路が獣医学に関連していること。

●基本情報：申請前年度までの5年間の獣医師国家試験合格者の進路に関連した情報（人数）を記入してください。

年度	国家試験合格者数 (A)	獣医学関連進路 (B)						その他	獣医学関連の割合 (B/A × 100 %)
		臨床 獣医師	公務員	民間 会社	教育職	進学	その他		
2016	124	55	25	9	0	3	25	7	94
2015	125	52	26	9	2	7	16	13	90
2014	117	54	27	4	0	2	26	4	97
2013	121	57	26	4	0	9	18	7	94
2012	121	62	19	4	0	8	14	14	88

【自己評価 2-31】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	申請前年までの5年間の進路先として、獣医学関連への割合が80%以上である年度が5回あった。	4
	申請前年までの5年間の進路先として、獣医学関連への割合が80%以上である年度が4回あった。	3
	申請前年までの5年間の進路先として、獣医学関連への割合が80%以上である年度が3回あった。	2
	申請前年までの5年間の進路先として、獣医学関連への割合が80%以上である年度が2回以下であった。	1

※ 評価の視点 2-28～31 に関する自己点検・評価の概要・長所・問題点を箇条書きなどで簡潔に記載してください。

評価の視点 2-28

- ・ **自己点検・評価の概要**：獣医学共用試験、研究論文作成提出と研究成果の口頭発表及び総合講義によって、学位授与方針に示した知識、技能、態度等の学生の学習成果の修得状況を把握し、評価している。
- ・ **長所**：複数の手段で、4年後期、6年前期、6年後期と段階的に学位授与方針に示した知識、技能、態度等の学生の学習成果の修得状況を把握し、評価している。
- ・ **問題点**：学生の学習成果の把握・評価方法があるが、それをもとにした教育改善は行われていない。

評価の視点 2-29

- ・ **自己点検・評価の概要**：新卒者の獣医師国家試験の合格率が80%以上である。
- ・ **長所**：1964年に獣医学教育を開始し、1967年より獣医師国家試験の受験を開始して以来、新卒者の獣医師国家試験の合格率は80%以上である。

評価の視点 2-30

- ・ **自己点検・評価の概要**：卒業生アンケート調査の実施（郵送）を実施し、卒業生の進路状況・活躍状況を把握している。
- ・ **長所**：毎年、卒業生の進路状況・活躍状況を把握している。
- ・ **問題点**：卒業生の進路状況・活躍状況を把握する仕組みはあるが、十分には機能していない。

評価の視点 2-31

- ・ **自己点検・評価の概要**：獣医師国家試験合格者の進路が獣医学に関連している。
- ・ **長所**：毎年、卒業生の80%以上が獣医学関連の進路を選択している。とくに、臨床獣医師と公務員が80-90名を占め、獣医師が求められる分野を進路としている。

3 学生の受け入れ

＜学生の受け入れ方針の設定、公表＞

【評価の視点 3-1】獣医学教育（学士課程）の目的に基づき、入学前の学習歴・知識水準・能力などの求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法を示した学生の受け入れ方針を定めていること。

●基本情報：学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を下欄に記入してください。

獣医学類では、建学の精神「三愛主義」を理解し、「健士健民」の教えを実践するために積極的に行動する強い開拓者精神を持った人物を求める。獣医学群が求める人材は建学の理念を理解し、獣医学群の教育目的を遂行できる人物である。獣医学類における獣医学教育（学士課程）では、国際通用性を基本とした獣医学及びその関連分野における高度な知識と技術を修得し、迫り来る諸問題を解決できる能力を具備する獣医師の育成を目的とする。社会に対する幅広い視野を有し、地域や地球レベルでの人と動物との調和に深い関心を持ち、日々進歩する最新知識を吸収できる基礎学力を持ち、生涯にわたって自己学習意欲を持つ人材を求める。

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	学生の受け入れ方針を定め、かつその方針に、入学前の学習歴・知識水準・能力などの求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法を示している。	3
○	学生の受け入れ方針を定めているが、その方針に、入学前の学習歴・知識水準・能力などの求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の全て、またはいずれかを示していない。	2
	学生の受け入れ方針を定めていない。	1

【評価の視点 3-2】学生の受け入れ方針を公表していること。

●基本情報：学生の受け入れ方針の公表方法を下欄に記入してください。

以下の方法にて、【評価の視点 3-1】に示した学生の受け入れ方針を公表している。

・本学ホームページ

<http://www.rakuno.ac.jp/outline/about/educationpolicy/p0101/p0103.html>

・入学試験要項

・大学案内

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	ウェブサイト及び大学案内等に掲載している。	3
	ウェブサイトまたは大学案内等に掲載している。	2
	公表していない。	1

<入学者選抜、定員管理>

【評価の視点 3-3】学生の受け入れ方針に従って、適正に学生を受け入れていること。

【評価の視点 3-4】多様な入試制度により、多様な志願者層に積極的に門戸を開いていること。

●基本情報：入学試験制度に関する情報を記入してください。

入試区分	入学定員	入学者数	入学定員計に対する当該入試区分の入学定員の割合(%)	入学者数計に対する当該入試区分の入学者数の割合(%)
推薦入試（一般、指定校、内部進学、地域獣医療支援等）	27	27	22.5	19.7
一般学力入試（センター利用含む）	93	110	91.7	80.3
外国人・社会人	若干名	0	定員外	—
編入学試験（2年次編入）	若干名	2	定員外	2年次編入のため計算対象から除く
計	120 —	137（1年次） 2（2年次編入）		

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	学生の受け入れ方針に沿った入学試験制度になっている。	3
	おおむね学生の受け入れ方針に沿った入学試験制度になっている。	2
	学生の受け入れ方針に沿った入学試験制度になっていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	多様な学生を受け入れている。	3
	学生の受け入れがやや画一的である。	2
	学生の受け入れが画一的である。	1

【評価の視点 3-5】入学定員を適正に管理していること。

●基本情報：申請以前5年間の入学者に関する情報を記入してください。

年 度	全入学定員	全入学者数	全入学者数／全入学定員（％）
2017	120	137	114.2
2016	120	149	124.2
2015	120	130	108.3
2014	120	130	108.3
2013	120	133	110.8
合計	600	679	113.2

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	入学定員に対する入学者数比率が100％以上120％未満である。	3
	入学定員に対する入学者数比率が80％以上100％未満または120％以上130％未満である。	2
	入学定員に対する入学者数比率が80％未満または130％以上である。	1

※ 評価の視点 3-1～5 に関する自己点検・評価の概要・長所・問題点を箇条書きなどで簡潔に記載してください。

評価の視点 3-1

- ・ 自己点検・評価の概要：獣医学教育（学士課程）の目的に基づき、入学前の学習歴・知識水準・能力などの求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法を示した学生の受け入れ方針を定めている。
- ・ 長所：建学の精神に基づいた学生の受け入れ方針を設定している。
- ・ 問題点：学生の受け入れ方針に、入学前の学習歴・知識水準・能力などの求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の全て、またはいずれかを示していない。

評価の視点 3-2

- ・ 自己点検・評価の概要：本学ホームページ、入学試験要領、大学案内に学生の受け入れ方針を公表している。
- ・ 長所：複数の方法で学生の受け入れ方針を公表している。

評価の視点 3-3 及び 3-4

- ・ **自己点検・評価の概要**：多様な入試制度により、多様な志願者層に積極的に門戸を開き、学生の受入れ方針に従って、適正に学生を受入れている。
- ・ **長所**：農林水産省の進める生産動物医療ならびに公務員獣医師の育成を目的とした「獣医療提供体制整備推進総合対策事業」に参加し、推薦入試に「地域獣医療支援」を設定し、生産動物医療ならびに公務員獣医師の育成に力を入れている。
- ・ **問題点**：見当たらない。

評価の視点 3-5

- ・ **自己点検・評価の概要**：入学定員は 2016 年度のみ 124.2%となっているが、過去 5 年間の合計は 113.2%であり、ほぼ適正に管理されている。
- ・ **長所**：複数の入学試験（推薦、第一期学力入試、第二期学力入試など）によって段階的に入学者を確定し、入学定員を適正に管理するための対策を有している。
- ・ **問題点**：2016 年度のみ 124.2%となった。

4 教員・教員組織

＜教育研究に関する組織＞

【評価の視点 4-1】教員組織の編制方針を定めていること。

●基本情報：教員組織の編制方針を下欄に記入してください。

本学獣医学群では、2015年3月に「獣医学群改革基本方針2014」を策定し、酪農学園大学獣医学群のあるべき20年後の理想像を設定した。「獣医学群改革基本方針2014」では、本学の建学の精神の一つである「健土健民」は今日急速に全世界でのグローバル化が進み多くの社会が分野を越えて複雑化する中で注目されている地球上のすべての生命に対してその健康を担保する「One World, One Health」の概念とほぼ同義語であり、この「One World, One Health」の中心を担うべきは獣医師および動物看護師であると位置づけ、健土健民思想のもとに実学教育を実践し、総合的な知識を持つ獣医師および動物看護師として「One World, One Health」を担える“人財”を輩出する大学教育を可能にする教員組織体制を含む教育体制の構築を目的とした。とくに、以下の3点に主眼を置いた教育および研究体制の整備を進めることとしている。 1. 社会貢献できる獣医学および動物看護学の教育および研究 2. 先進的で総合的な獣医学および動物看護学の教育および研究 3. 国際化に対応した獣医学および動物看護学の教育および研究	
---	--

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	教員組織の編制方針を定めている。	3
	教員組織の編制方針を定めているが、方針の内容が不十分である。	2
	教員組織の編制方針を定めていない。	1

＜教員組織＞

【評価の視点 4-2】専任教員を中心に、獣医学教育（学士課程）に必要な教員を確保していること。

●基本情報：記入要領にしたがって、以下の教員名簿を作成してください。

分類	職名	モデル・コア・カリキュラム相当科目名	氏名	年齢・男女	当該科目の負担割合	獣医師免許の有無	備考
専任教員	教授	獣医組織学 A	竹花一成	61・男	8/15	有	
		獣医組織学 B			15/15		
		生体機能学演習			15/15		
		生体機能学特論			2/15		

		生体機能学実習			15/15		
		生体機能学基礎実験			15/15		
専任教員	教授	動物感染症学	桐澤力雄	59・男	9/15	有	
		獣医ウイルス病学			15/15		
		獣医ウイルス病学実習			15/15		
		感染病理学演習			15/15		
		感染病理学特論			2/15		
		感染病理学実習			15/15		
		感染病理学基礎実験			15/15		
		統合獣医学			2/60		
専任教員	教授	獣医療概論	及川 伸	56・男	4/15	有	
		ハードヘルス学			10/15		
		産業動物臨床学 B			3/15		
		衛生環境学演習			15/15		
		衛生環境学特論			2/15		
		衛生環境学実習			15/15		
		衛生環境学基礎実験			15/15		
		統合獣医学			1/60		
専任教員	教授	臨床薬理学	山下和人	52・男	6/15	有	
		獣医麻酔疼痛管理学			15/15		
		獣医麻酔疼痛管理学実習			15/15		
		クリニカルローテーション			30/45		
		学外実習			15/15		
		病院実習専修コース			15/15		
		伴侶動物医療クリニカルローテーション			15/15		
		伴侶動物医療アドバンスドコース			15/15		
		統合獣医学			2/60		
専任教員	教授	獣医生化学	岩野英知	47・男	15/15	有	
		分子遺伝学			15/15		
		獣医生化学実習			15/15		
		研究発表			15/15		
		生体機能学演習			15/15		
		生体機能学実習			15/15		
		生体機能学基礎実験			15/15		
		統合獣医学			3/60		
専任教員	教授	獣医療概論	上野博史	48・男	1/15	有	
		手術学総論			3/15		
		研究発表			15/15		
		伴侶動物外科学各論 A			8/15		

		伴侶動物外科学各論 B			3/15		
		クリニカルローテーション			30/45		
		病院実習専修コース			15/15		
		伴侶動物医療クリニカルローテーション			15/15		
		伴侶動物医療アドバンスドコース			15/15		
		統合獣医学			2/60		
専任教員	教授	獣医細菌学	内田郁夫	61・男	15/15	有	
		獣医細菌病学			15/15		
		獣医細菌病学実習			3/15		
		生体機能学演習			15/15		
		生体機能学特論			3/15		
		生体機能学実習			15/15		
		生体機能学基礎実験			15/15		
		統合獣医学			1/60		
専任教員	教授	獣医核医学基礎	遠藤大二	58・男	12/15	有	
		獣医核医学基礎実習			13/15		
		生体機能学演習			15/15		
		生体機能学実習			15/15		
		生体機能学基礎実験			15/15		
		統合獣医学			1/60		
専任教員	教授	実験動物学	大杉剛生	60・男	15/15	有	
		実験動物学実習			15/15		
		生体機能学演習			15/15		
		生体機能学特論			2/15		
		生体機能学実習			15/15		
		生体機能学基礎実験			15/15		
専任教員	教授	栄養生理学	翁長武紀	52・男	11/15	有	
		獣医生理学各論 B			15/15		
		獣医生理学実習 B			8/15		
		生体機能学演習			15/15		
		生体機能学特論			2/15		
		生体機能学実習			15/15		
		生体機能学基礎実験			15/15		
		統合獣医学			2/60		
専任教員	教授	生体機能学演習	加藤敏英	58・男	15/15	有	
		産業動物臨床学 B			6/15		
		生体機能学実習			15/15		
		生体機能学基礎実験			15/15		
		病院実習専修コース			15/15		

専任教員	教授	手術学総論	廉澤 剛	56・男	3/15	有	
		伴侶動物外科学各論 B			6/15		
		伴侶動物外科学各論 C			10/15		
		獣医臨床腫瘍学			9/15		
		クリニカルローテーション			30/45		
		病院実習専修コース			15/15		
		伴侶動物医療クリニカルローテーション			15/15		
		伴侶動物医療アドバンスドコース			15/15		
		統合獣医学			1/60		
専任教員	教授	獣医生理学総論	北村 浩	47・男	15/15	有	
		獣医生理学各論 A			8/15		
		獣医生理学実習 A			15/15		
		生体機能学演習			15/15		
		生体機能学特論			2/15		
		生体機能学実習			15/15		
		生体機能学基礎実験			15/15		
		統合獣医学			2/60		
専任教員	教授	産業動物臨床学 A	小岩政照	65・男	3/15	有	
		クリニカルローテーション			15/45		
		病院実習専修コース			15/15		
		生産動物医療クリニカルローテーション			15/15		
		生産動物医療アドバンスドコース			15/15		
		統合獣医学			1/60		
専任教員	教授	臨床薬理学	鈴木一由	51・男	6/15	有	
		産業動物外科学			7/15		
		産業動物臨床学 A			2/15		
		手術学総論			3/15		
		クリニカルローテーション			15/45		
		病院実習専修コース			15/15		
		生産動物医療クリニカルローテーション			15/15		
		生産動物医療アドバンスドコース			15/15		
		統合獣医学			1/60		
専任教員	教授	産業動物外科学	田口 清	63・男	4/15	有	
		クリニカルローテーション			15/45		
		病院実習専修コース			15/15		
		生産動物医療クリニカルローテーション			15/15		

		生産動物医療アドバンスド コース			15/15		
専任教員	教授	臨床学総論	田島 誉士	56・男	7/15	有	
		獣医療概論			1/15		
		産業動物臨床学 A			7/15		
		クリニカルローテーション			15/45		
		病院実習専修コース			15/15		
		研究発表			15/15		
		生産動物医療クリニカルロ ーテーション			15/15		
		生産動物医療アドバンスド コース			15/15		
専任教員	教授	獣医薬理学 A	寺岡宏樹	53・男	16/30	有	
		獣医薬理学 B			9/15		
		毒性学			10/15		
		臨床薬理学			3/15		
		獣医薬理学実習			10/15		
		生体機能学演習			15/15		
		生体機能学実習			15/15		
		生体機能学基礎実験			15/15		
		統合獣医学			2/60		
専任教員	教授	臨床繁殖学 A	中田 健	50・男	15/15	有	
		臨床繁殖学 B			15/15		
		クリニカルローテーション			15/45		
		病院実習専修コース			15/15		
		統合獣医学			2/60		
		生産動物医療クリニカルロ ーテーション			15/15		
		生産動物医療アドバンスド コース			15/15		
		統合獣医学			2/60		
専任教員	教授	画像診断学 A	中出哲也	60・男	15/15	有	
		画像診断学 B			6/15		
		クリニカルローテーション			30/45		
		病院実習専修コース			15/15		
		伴侶動物医療クリニカルロ ーテーション			15/15		
		伴侶動物医療アドバンスド コース			15/15		
		統合獣医学			2/60		
専任教員	教授	衛生環境学特論	永幡 肇	64・男	1/15	有	

		衛生環境学実習			15/15		
		衛生環境学基礎実験			15/15		
		統合獣医学			1/60		
専任教員	教授	獣医ウイルス学	萩原克郎	52・男	15/15	有	
		獣医ウイルス病学実習			11/15		
		魚病学			1/15		
		感染病理学演習			15/15		
		感染病理学特論			1/15		
		感染病理学実習			15/15		
		感染病理学基礎実験			15/15		
専任教員	教授	動物衛生学総論	樋口豪紀	47・男	15/15	有	
		研究発表			15/15		
		衛生環境学演習			15/15		
		衛生環境学特論			4/15		
		衛生環境学実習			15/15		
		衛生環境学基礎実験			15/15		
		統合獣医学			1/60		
専任教員	教授	獣医寄生虫学	福本真一郎	62・男	15/15	有	
		獣医寄生虫病学実習			9/15		
		感染病理学演習			15/15		
		感染病理学特論			1/15		
		感染病理学実習			15/15		
		感染病理学基礎実験			15/15		
		統合獣医学			1/60		
専任教員	教授	公衆衛生学総論	村松康和	55・男	3/15	有	
		人獣共通感染症学			15/15		
		環境衛生・毒性学実習			2/15		
		衛生環境学演習			15/15		
		衛生環境学特論			1/15		
		衛生環境学実習			15/15		
		衛生環境学基礎実験			15/15		
		統合獣医学			2/60		
専任教員	教授	公衆衛生学総論	田村 豊	65・男	3/15	有	
		食品衛生学			8/15		
		食品衛生学実習			13/15		
		臨床薬理学			1/15		
		統合獣医学			2/60		
専任教員	教授	獣医生化学実習	横田 博	65・男	15/15	無し	
専任教員	准教授	手術学総論	井坂光宏	44・男	3/15	有	
		伴侶動物外科学各論 A			7/15		

		クリニカルローテーション			30/45		
		病院実習専修コース			15/15		
		伴侶動物医療クリニカルローテーション			15/15		
		伴侶動物医療アドバンスドコース			15/15		
		統合獣医学			2/60		
専任教員	准教授	獣医解剖学 A	植田弘美	53・男	15/15	有	
		獣医解剖学 B			15/15		
		獣医解剖学実習			15/15		
		獣医組織学実習			15/15		
		生体機能学演習			15/15		
		生体機能学特論			2/15		
		生体機能学実習			15/15		
		生体機能学基礎実験			15/15		
		統合獣医学			2/60		
専任教員	准教授	公衆衛生学総論	臼井 優	35・男	3/15	有	
		食品衛生学			7/15		
		食品衛生学実習			13/15		
		衛生環境学演習			15/15		
		衛生環境学特論			1/15		
		衛生環境学実習			15/15		
		衛生環境学基礎実験			15/15		
		統合獣医学			1/60		
専任教員	准教授	産業動物臨床学 A	大塚浩通	47・男	3/15	有	
		産業動物臨床学 B			5/15		
		産業動物外科学			1/15		
		クリニカルローテーション			15/45		
		病院実習専修コース			15/15		
		生産動物医療クリニカルローテーション			15/15		
		生産動物医療アドバンスドコース			15/15		
		統合獣医学			1/60		
専任教員	准教授	病態免疫学	岡本 実	46・男	15/15	有	
		臨床病理学 B			2/15		
		獣医免疫学実習			15/15		
		感染病理学演習			15/15		
		感染病理学特論			1/15		
		感染病理学実習			15/15		
		感染病理学基礎実験			15/15		
		統合獣医学			1/60		

専任教員	准教授	臨床病理学 A	川本 哲	55・男	3/15	有	
		生産動物臨床学 B			3/15		
		生産動物外科学			3/15		
		クリニカルローテーション			15/45		
		病院実習専修コース			15/15		
		生産動物医療クリニカルローテーション			15/15		
		生産動物医療アドバンスドコース			15/15		
		統合獣医学			1/60		
専任教員	准教授	動物倫理・動物福祉学	高橋優子	48・女	15/15	無し	
		獣医療概論			1/15		
		衛生環境学演習			15/15		
		衛生環境学特論			1/15		
		衛生環境学実習			15/15		
		衛生環境学基礎実験			15/15		
		統合獣医学			1/60		
専任教員	准教授	公衆衛生学総論	能田 淳	48・男	3/15	無し	
		環境衛生学			26/30		
		毒性学			5/15		
		食品衛生学実習			2/15		
		環境衛生・毒性学実習			13/15		
		衛生環境学演習			15/15		
		衛生環境学特論			1/15		
		衛生環境学実習			15/15		
		衛生環境学基礎実験			15/15		
		統合獣医学			1/60		
専任教員	准教授	獣医生理学各論 A	林 英明	40・男	7/15	無し	
		獣医生理学実習 A			15/15		
		生体機能学演習			15/15		
		生体機能学特論			1/15		
		生体機能学実習			15/15		
		生体機能学基礎実験			15/15		
専任教員	准教授	魚病学	平田晴之	44・男	8/15	有	
		統合獣医学			1/60		
専任教員	准教授	臨床病理学 A	堀 泰智	41・男	7/15	有	
		伴侶動物内科学各論 A			15/15		
		伴侶動物内科学実習			2/15		
		クリニカルローテーション			30/45		
		病院実習専修コース			15/15		

		伴侶動物医療クリニカルローテーション			15/15		
		伴侶動物医療アドバンスドコース			15/15		
		統合獣医学			1/60		
専任教員	准教授	臨床学総論	前原誠也	41・男	8/15	有	
		伴侶動物内科学各論 C			15/15		
		伴侶動物内科学実習			9/15		
		クリニカルローテーション			30/45		
		病院実習専修コース			15/15		
		伴侶動物医療クリニカルローテーション			15/15		
		伴侶動物医療アドバンスドコース			15/15		
		統合獣医学			2/60		
専任教員	准教授	獣医療概論	蒔田浩平	46・男	1/15	有	
		獣疫学			15/15		
		衛生環境学演習			15/15		
		衛生環境学特論			1/15		
		衛生環境学実習			15/15		
		衛生環境学基礎実験			15/15		
		統合獣医学			1/60		
専任教員	准教授	獣医病理学総論	松田一哉	43・男	7/15	有	
		獣医病理学各論			8/15		
		獣医病理学実習			15/15		
		感染病理学演習			15/15		
		感染病理学特論			1/15		
		感染病理学実習			15/15		
		感染病理学基礎実験			15/15		
		統合獣医学			2/60		
専任教員	准教授	統合獣医学	森好政晴	60・男	2/60	有	
		クリニカルローテーション			15/45		
		病院実習専修コース			15/15		
		生産動物医療クリニカルローテーション			15/15		
		生産動物医療アドバンスドコース			15/15		
専任教員	准教授	栄養生理学	安井由美子	39・女	4/15	無し	
		獣医生理学実習 B			11/15		
		生体機能学演習			15/15		
		生体機能学実習			15/15		
		生体機能学基礎実験			15/15		
		魚病学			2/15		

専任教員	准教授	獣医畜産法規	上野弘志	62・男	15/15	有	
専任教員	講師	公衆衛生学総論	内田玲麻	31・男	3/15	有	
		衛生環境学演習			15/15		
		衛生環境学特論			1/15		
		衛生環境学実習			15/15		
		衛生環境学基礎実験			15/15		
専任教員	講師	手術学総論	遠藤能史	38・男	3/15	有	
		伴侶動物外科学各論 B			3/15		
		伴侶動物外科学各論 C			5/15		
		獣医臨床腫瘍学			6/15		
		クリニカルローテーション			30/45		
		病院実習専修コース			15/15		
		伴侶動物医療クリニカルローテーション			15/15		
		伴侶動物医療アドバンスドコース			15/15		
		統合獣医学			2/60		
専任教員	講師	臨床病理学 B	玉本隆司	34・男	13/15	有	
		伴侶動物内科学各論 B			15/15		
		伴侶動物内科学実習			4/15		
		クリニカルローテーション			30/45		
		病院実習専修コース			15/15		
		伴侶動物医療クリニカルローテーション			15/15		
		伴侶動物医療アドバンスドコース			15/15		
		統合獣医学			2/60		
専任教員	講師	ハードヘルス学	福森理加	31・女	5/15	無し	
		衛生環境学演習			15/15		
		衛生環境学実習			15/15		
		衛生環境学基礎実験			15/15		
専任教員	講師	獣医組織学 A	美名口順	37・男	7/15	有	
		獣医組織学実習			15/15		
		生体機能学演習			15/15		
		生体機能学特論			2/15		
		生体機能学実習			15/15		
		生体機能学基礎実験			15/15		
		統合獣医学			2/60		
専任教員	講師	獣医麻酔疼痛管理学実習	三好健二郎	44・男	15/15	有	
		クリニカルローテーション			30/45		
		病院実習専修コース			15/15		

		伴侶動物医療クリニカルローテーション			15/15		
		伴侶動物医療アドバンスドコース			15/15		
		統合獣医学			2/60		
専任教員	講師	獣医細菌病学実習	村田 亮	36・男	15/15	有	
		感染病理学演習			15/15		
		感染病理学特論			1/15		
		感染病理学実習			15/15		
		感染病理学基礎実験			15/15		
		魚病学			1/15		
		統合獣医学			1/60		
専任教員	助教	獣医核医学基礎	五十嵐寛高	36・男	3/15	有	
		獣医核医学基礎実習			2/15		
		クリニカルローテーション			30/45		
		生体機能学演習			15/15		
		生体機能学実習			15/15		
		生体機能学基礎実験			15/15		
		病院実習専修コース			15/15		
専任教員	助教	獣医病理学総論	佐野悠人	31・男	7/15	有	
		獣医病理学各論			7/15		
		獣医病理学実習			15/15		
		獣医免疫学実習			15/15		
		感染病理学演習			15/15		
		感染病理学実習			15/15		
		感染病理学基礎実験			15/15		
専任教員	助教	生化学実習	藤木純平	27・男	15/15	有	
		生体機能学演習			15/15		
		生体機能学実習			15/15		
		生体機能学基礎実験			15/15		
臨床教員	助手	クリニカルローテーション	足立真美	36・女	30/45	有	
		伴侶動物医療クリニカルローテーション			15/15		
		伴侶動物医療アドバンスドコース			15/15		
臨床教員	助手	クリニカルローテーション	伊藤暁史	35・男	30/45	有	
		伴侶動物医療クリニカルローテーション			15/15		
		伴侶動物医療アドバンスドコース			15/15		
臨床教員	助手	クリニカルローテーション	佐藤綾乃	37・女	15/45	有	
		生産動物医療クリニカルローテーション			15/15		

		生産動物医療アドバンスド コース			15/15		
臨床教員	助手	クリニカルローテーション	菅野美樹夫	59・男	15/45	有	
		生産動物医療クリニカルロ ーテーション			15/15		
		生産動物医療アドバンスド コース			15/15		
	助手	クリニカルローテーション	丹羽昭博	31・男	30/45		
		伴侶動物医療クリニカルロ ーテーション			15/15		
		伴侶動物医療アドバンスド コース			15/15		
臨床教員	助手	クリニカルローテーション	堀 あい	30・女	30/45		
		伴侶動物医療クリニカルロ ーテーション			15/15		
		伴侶動物医療アドバンスド コース			15/15		
兼任教員	教授	獣医療概論	北澤多喜雄	60・男	3/15	有	獣 医 保 健 看 護 学 類
		獣医薬理学 A			14/30		
		獣医薬理学 B			6/15		
		獣医薬理学実習			6/15		
		統合獣医学			1/60		
兼任教員	教授	獣医療概論	浅川満彦	57・男	1/15	有	獣 医 保 健 看 護 学 類
		獣医寄生虫病学			15/15		
		獣医寄生虫病学実習			7/15		
		感染病理学演習			15/15		
		感染病理学特論			1/15		
		感染病理学実習			15/15		
		感染病理学基礎実験			15/15		
兼任教員	教授	獣医療概論	内田英二	59・男	1/15	有	獣 医 保 健 看 護 学 類
兼任教員	教授	環境衛生学	澤本卓治	45・男	2/30	無し	循 環 農 学 類
兼任教員	准教授	獣医療概論	郡山尚紀	42・男	1/15	有	獣 医 保 健 看 護 学 類
		動物行動学			10/15		
兼任教員	准教授	獣医療概論	佐野忠士	42・男	1/15	有	獣 医 保 健 看 護 学 類
		動物行動学			5/15		
		獣医麻酔疼痛管理学実習			15/15		

		クリニカルローテーション			30/45		
兼任教員	講師	獣医療概論	八百坂紀子	40・女	1/15	有	獣医保健看護学類

分 類	所属・職名	モデル・コア・カリキュラム相当科目名	氏名	当該科目の負担割合	獣医師免許の有無	備考
兼任教員	北海道大学水産学部 教授	魚病学	浦和 茂彦	4/15	無し	
兼任教員	北海道大学獣医学部 教授	画像診断学B	滝口 満喜	9/15	有	

●基本情報：モデル・コア・カリキュラム担当教員の過去5年分の教育・研究業績を提出してください。

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	専任教員数の割合 (学生定員に準じた必要専任教員数に対する割合(％))	判定
	80％以上	4
	70 以上 80％未満	3
○	60 以上 70％未満	2
	60％未満	1

【評価の視点 4-3】専任教員を分野ごとに適正に配置していること。

●基本情報：導入・基礎分野、病態分野、応用分野、臨床分野の教科を担当している専任教員数をそれぞれ以下の表に記入してください。

分 野	専任教員数	％	適正な範囲	範囲内に有る場合に○を付してください。
導入・基礎分野	14	25.9	15～30%	○
病態分野	10	18.5	10～30%	○
応用分野	12	22.2	10～30%	○
臨床分野	小動物	10	30～50%	○
	産業動物	8		
合 計	54			

(※専任教員の配置については、モデル・コア・カリキュラムの担当科目による。)

【自己評価 4-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての分野が範囲内にある。	4
	おおむね全ての分野が範囲内にある。	3
	範囲内にない分野がある。	2
	全ての分野が範囲内にない。	1

【評価の視点 4-4】コア科目の実施にあたり、専任教員が適正に配置されていること。

【自己評価 4-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全てのコア科目担当者が関連の研究業績又は専門職経験を有し、担当者として相応しい。	3
	おおむね全てのコア科目担当者が関連の研究業績又は専門職経験を有し、担当者として相応しい。	2
	多くのコア科目で相応しくない担当者がいる。	1

【評価の視点 4-5】アドバンス科目の実施にあたり、適正な担当者で実施されていること。

【自己評価 4-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全てのアドバンス科目担当者が関連の研究業績又は専門職経験を有し、担当者として相応しい。	3
	おおむね全てのアドバンス科目担当者が関連の研究業績又は専門職経験を有し、担当者として相応しい。	2
	多くのアドバンス科目で相応しくない担当者がいる。	1

【評価の視点 4-6】専任教員の構成（獣医師免許保有状況、年齢、男女比）が適切であること。

●基本情報：専任教員の年齢別構成及び女性教員数について、以下に記入してください。

職位	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	計
教授数			4	13	10		27
	%	%	15%	48%	37%	%	100%
准教授（専任講師を含む）数		8	12	2	2		24
	%	12%	50%	8%	8%	%	100%
助教数	1	2					3
	33%	67%	%	%	%	%	100%
合計	1	10	16	15	12	0	54
うち獣医師免許保有者数	1	8	13	15	11	0	48
	2%	17%	27%	31%	23%	0%	100%
うち女性教員数	0	2	1	0	0	0	3
	%	67%	33%	%	%	%	100%

【自己評価 4-6】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

a 獣医師免許保有率

自己評価	評価内容	判定
○	専任教員の獣医師免許保有率が 70%以上である。	4
	専任教員の獣医師免許保有率が 60%～70%未満である。	3
	専任教員の獣医師免許保有率が 50%～60%未満である。	2
	専任教員の獣医師免許保有率が 50%未満である。	1

b 職位ごとの年齢構成

自己評価	評価内容	判定
○	各職位の年齢構成のバランスが取れている。	3
	各職位の年齢構成のバランスがおおむね取れている。	2
	各職位の年齢構成に偏りがある。	1

c 女性教員の割合

自己評価	女性教員の占める割合（％）	判定
	30％以上	4
	20％以上 30％未満	3
	10％以上 20％未満	2
○	10％未満	1

<教員の募集・任免・昇格>

【評価の視点 4-7】専門性に配慮した教員任用に関する公正な基準を設定していること。

●基本情報：教員任用を行うための基準を記入してください。

酪農学園大学教員資格基準の基、獣医学類では研究業績と教育経験等に基準を設けている。

【教 授】

研究業績：公表されている PubMed 収録雑誌に掲載された英文の総論文数が 30 編以上あること。FA 論文と CA 論文との合計が 10 編以上あること。最近 5 年以内に公表された論文が 5 編以上で FA 論文と CA 論文との合計が 2 編以上あること。

教育経験：有ることが望ましい。教育歴を勘案する。

臨床経験等：実験動物学分野の教授は実験動物医学専門医を取得していること。獣医放射線生物学分野の教授は第一種放射線取扱主任者資格を有すること。臨床系教員にあつては十分な臨床経験を有すること。

その他：人格円満で協調性、包容性に富む者。基準を満たした者で人物像と賞罰を含めて総合的に判断。博士の学位を有すること。獣医師の免許の有無は採用分野による。

【准教授】

研究業績：公表されている PubMed 収録雑誌に掲載された英文の総論文数が 10 編以上あること。FA 論文と CA 論文との合計が 5 編以上あること。最近 5 年以内に公表された論文が 3 編以上で FA 論文と CA 論文との合計が 1 編以上あること。

教育経験：有ることが望ましい。教育歴を勘案する。

臨床経験等：臨床系教員にあつては相応な臨床経験を有すること。

その他：人格円満で協調性に富む者。基準を満たした者で人物像と賞罰を含めて総合的に判断。博士の学位を有すること。獣医師の免許の有無は採用分野による。

【講 師】

研究業績：筆頭著者で PubMed 収録の学術雑誌に掲載された英文論文が 3 編以上あること。

教育経験：有ることが望ましい。教育歴を勘案する。

臨床経験等：臨床系教員にあつては相応な臨床経験を有すること。

その他：基準を満たした者で人物像と賞罰を含めて総合的に判断。博士の学位を有すること。獣医師の免許の有無は採用分野による。

【助 教】

該当する分野の担当授業ができること。
 酪農学園の建学の精神の理解があること。
 獣医学教育に熱意があること。
 博士の学位を有する、または取得見込み。
 獣医師の免許の有無は採用分野による。

【自己評価 4-7】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	教員任用を行うための基準は適切である。	3
	教員任用を行うための基準の内容が不十分である。	2
	教員任用を行うための基準がない。	1

【評価の視点 4-8】 教員の任用に際して、透明性のある手続等を定めていること。**●基本情報：教員任用の際の手続を記入してください。****【募集の決定】**

学長は、希望する人員について採用計画を作成のうえ、事務局長に申請する。事務局長は採用計画を取り纏め、常任理事会に諮る。常任理事会は、現状並びに今後の運営を検討のうえ、募集内容を決定する。

【募集手続き】

学長は、常任理事会の決定に基づき事務局総務課に連絡し、総務課は募集要項を作成する。公募方法はHP・ハローワークへの掲出、関係団体（大学・企業等）への要項送付を基本とする。業務内容等の照会先は獣医学類の担当者とし、応募書類については総務課が受付取り纏めるものとする。

【選考手続き】

役員面接までの選考は、酪農学園大学学群教員資格審査委員会を経て大学が行う。大学での選考は、資格審査のみを行なうものとし、当該審査結果については順位をつけることを可能とし、事務局長を経由し常任理事会に報告するものとする。常任理事会は役員面接の対象者を決定し、役員面接を実施する。

【自己評価 4-8】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	教員任用の手続は適切である。	3
	教員任用の手続に不備がある。	2
	教員任用の手続規定がない。	1

＜教員の責務と資格＞

【評価の視点 4-9】専任教員のコア科目に関する講義負担が過度とならないよう配慮していること。

【自己評価 4-9】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	コア科目に関する講義負担が過度な専任教員がいない。	4
○	コア科目に関する講義負担が過度な専任教員はほとんどいない。	3
	コア科目に関する講義負担が過度な専任教員が半数以上存在する。	2
	コア科目に関する講義負担が過度な専任教員が多い。	1

【評価の視点 4-10】専任教員のコア科目に関する実習負担（参加型臨床実習を除く）が過度とならないよう配慮していること。

【自己評価 4-10】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	コア科目に関する実習負担が過度な専任教員がいない。	4
○	コア科目に関する実習負担が過度な専任教員はほとんどいない。	3
	コア科目に関する実習負担が過度な専任教員が半数以上存在する。	2
	コア科目に関する実習負担が過度な専任教員が多い。	1

【評価の視点 4-11】教員の資質向上を図るために組織的かつ多面的にFD活動に取り組んでいること。

●基本情報：FDの実施体制、実施内容を記入してください。

酪農学園大学FD委員会を設置し、規程に基づき全学的にFD活動に取り組んでいる。主な活動は、授業アンケートの実施、FD研修会の開催、教育環境改善を目的とした教職員と学生の意見交流活動などがある。

授業アンケート：全学統一の授業評価アンケートを実施している。原則すべての科目を対象に実施。（履修者20名以下、専門ゼミナールなど除外科目はある）学生の授業に対する意識や取り組み方を調べ、その結果を教員へフィードバックし、改善点について担当者より報告させ、授業改善を目的とする。また、学生が授業選択の参考になるように実施結果を開示している。教員には「検討事項調査票」の提出を依頼している。FD委員会にて集計し、授業改善のポイントをFD委員より教授会で報告を行った。

FD研修会の開催：FD委員会の中で担当者を決めて、年に2回程実施している。2017年度は、5月29日に久留米大学の安永悟氏を招き「活動性を高める授業づくりの基礎と展開：LTD基盤型授業」の講演とワークを実施した。9月21日に学生の学修行動を測るためのアンケート調査・分析を委託しているベネッセi-キャリアより講師を招き、本学学生の動向を把握し、教育改善に活用している。また、北海道地区FD・SD推進協議会総会及び共同企画、京都で開催されるFDフォーラムなどの学外の研修会にもFD委員を中心に参加している。

教育環境改善を目的とした教職員と学生の意見交流活動：「学生と教員との対話集会」として、学長・学群長・教育センター長・FD委員長と学生が直接対話する場を設けている。年1回、毎年12月頃に実施している。

「投書箱」：学内に設けられた6つのポストに、学生が教育に関することから学生生活に係ることまで意見を投書できる。投書された内容は、FD委員長から学群長や担当部署に伝えられる。匿名の場合は直接本人に回答はしない。「メール箱」：投書箱のメール版。

【自己評価 4-11-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	FDの実施体制は適切である。	3
	FDの実施体制に不備がある。	2
	FDの実施体制がない。	1

【自己評価 4-11-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	FDの実施内容は適切である。	3
	FDの実施内容に不備がある。	2
	FDを実施していない。	1

※ 評価の視点 4-1～11 に関する自己点検・評価の概要・長所・問題点を箇条書きなどで簡潔に記載してください。

評価の視点 4-1

- ・ 自己点検・評価の概要：教員組織の編制方針を定めている。
- ・ 長所：2015 年 3 月に「獣医学群改革基本方針 2014」を策定して酪農学園大学獣医学群のあるべき 20 年後の理想像を設定し、これを目標に教育及び研究体制の整備を進めている。

評価の視点 4-2

- ・ 自己点検・評価の概要：専任教員を中心に、獣医学教育（学士課程）に必要な教員確保に努めているが、現状の専任教員数は 51 名であり、学生定員（120 名）に準じた必要専任教員数（77 名）に対する割合は 66.2%に留まっている。
- ・ 長所：専任教員 51 名に加え、嘱託教員 9 名（教授 2 名、准教授 1 名、助手 6 名）を配置し、実学教育の実践に努めている。嘱託助手は 2018 年度に 10 名（生産動物医療 3 名、伴侶動物医療 7 名）を配置する予定である。
- ・ 問題点：獣医学類専任教員 77 名以上を目指し、人員を確保する必要がある。

評価の視点 4-3

- ・ 自己点検・評価の概要：専任教員数はやや不足しているが、分野ごとに適正な割合で配置している。
- ・ 長所：導入・基礎分野（生体機能学分野）、病態分野（感染病理学分野）、応用分野（衛生環境学分野）、臨床分野（生産動物医療学分野、伴侶動物医療学分野）において、講義科目の教育に必要な人数をバランス良くほぼ確保している。
- ・ 問題点：臨床分野の教員配置は適正範囲の下限を上回っている程度となっている。

評価の視点 4-4

- ・ 自己点検・評価の概要：専任教員が適正に配置されている。
- ・ 長所：コア科目担当者は関連分野の研究業績または専門職経験を有し、獣医学類専任教員 51 名のうち 25 名が教授である。
- ・ 問題点：教授が半数を占め、若手教員の割合が少ない。

評価の視点 4-5

- ・ 自己点検・評価の概要：専任教員が適正に配置されている。
- ・ 長所：アドバンス科目担当者は関連分野の研究業績または専門職経験を有し、獣医学類専任教員 51 名のうち 25 名が教授である。
- ・ 問題点：教授が半数を占め、若手教員の割合が少ない。

評価の視点 4-6

- ・ 自己点検・評価の概要：専任教員の獣医師免許保有状況は適正以上であり、年齢構成もバランスが取れているが、男女比は適切とは言えない。
- ・ 長所：専任教員の獣医師免許保有率は 94.1%と高い。
- ・ 問題点：女性教員が非常に少ない。

評価の視点 4-7

- ・ 自己点検・評価の概要：専門性に配慮した教員任用の公正な基準を設定している。
- ・ 長所：各職階について、教員任用のための明確な基準を設けている。

評価の視点 4-8

- ・ **自己点検・評価の概要**：教員の任用に際して、透明性のある手続等を定めている。
- ・ **長所**：採用計画、募集、選考の各手続きは明確な手順によって、常任理事会の決定に基づいて実施されている。
- ・ **問題点**：常任理事会で最終決定される際に、学群の構想が反映されないこともある。

評価の視点 4-9

- ・ **自己点検・評価の概要**：専任教員のコア科目に関する講義負担が過度とならないよう配慮している。
- ・ **長所**：専任教員の獣医学類のコア科目に関する講義負担は概ね均一である。
- ・ **問題点**：一部の獣医学類専任教員は、獣医保健看護学類の講義科目を担当しており、講義負担が過度となる懸念がある。

評価の視点 4-10

- ・ **自己点検・評価の概要**：専任教員のコア科目に関する実習負担が過度とならないよう配慮している。
- ・ **長所**：専任教員の獣医学類のコア科目に関する実習負担は概ね均一である。
- ・ **問題点**：一部の獣医学類専任教員は、獣医保健看護学類の実習科目を担当しており、講義負担が過度となる懸念がある。

評価の視点 4-11

- ・ **自己点検・評価の概要**：教員の資質向上を図るために組織的かつ多面的にFD活動に取り組んでいる。
- ・ **長所**：FD活動は全学的に実施されており、教育改善に活かされている。また、FDセミナーに関しては、参加できなかった教員に対するeラーニングも活用されている。

5 学生支援

＜修学支援・生活支援＞

【評価の視点 5-1】 学生生活に関する相談・支援体制を整備し、適切に支援していること。

●基本情報：学生生活に関する相談・支援体制を記入してください。

学生生活に関する相談・支援体制を整備し、以下のような支援を実施している。

- ・ 修学に際し、何らかの困難を感じ、配慮を希望する学生には、面談のうえ、一定の合理的配慮をすることとし、その配慮内容を関係教員と共有している。
- ・ 学生の健康管理において、医務室に専任の保健師及び看護師が常駐し、体調不良等の学生の対応や保護者対応を実施。場合によっては、医療機関の紹介・同行も行っている。また、学生相談室では専任の臨床心理士が常駐し、学生のメンタル等に関する相談・医療機関の紹介を行っている。そのほかに、入学前学生及び保護者に対し心身及び精神面での面談も実施している。
- ・ 障がい学生支援委員会と連携し、配慮等が必要な学生の支援について教員・関係部署と情報共有をしている。学内には、医務室以外の場所でも休めるように休息スペースを数箇所設置。
- ・ ハラスメント対策規程及びガイドラインを整備し、キャンパス・ハラスメントに関する相談窓口の設置、学類毎に 1 名の教員インテイクを配置し、学生が安心して相談できる環境づくりに努めている。
- ・ 本学独自の奨学金制度を設け、経済的に困窮している学生の支援を行っている。

【自己評価 5-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	学生生活に関する相談・支援体制があり、適切に支援を行っている。	3
	学生生活に関する相談・支援体制はあるが、支援が不十分である。	2
	学生生活に関する相談・支援体制がない。	1

【評価の視点 5-2】 学生の自主的な学習を促進させる取り組みの支援、学生の能力に応じた補習・補充教育を実施していること。

●基本情報：学生の自主的な学習を促進させる取り組み等を記入してください。

本学では Web システムにより学生が授業時間外に教材等にアクセスできる環境を構築し、これを活用して以下の取り組み等を行っている。※ () 内は使用しているシステムを示す

- ・ 授業資料の事前配布による予習活動の促進 (e ラーニング)
- ・ 授業回、単元ごとに理解度を確認する小テストの実施 (e ラーニング)
- ・ 講義スライド、音声を収録した映像教材のオンデマンド配信による復習活動の促進 (e ラーニング・授業収録ソフト・映像配信システム)

- ・ 附属動物医療センター等における臨床映像の教材化、オンデマンド配信による臨床実習の事前学習促進（eラーニング・映像撮影、編集機器・映像配信システム）
- ・ 実験、実習等のレポート、試験答案の採点結果をオンライン返却することによる“ふりかえり”の促進（飛ぶノート）
- ・ 初年における獣医英語学習支援のための反復練習問題の提供（eラーニング）

【自己評価 5-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	学生の自主的な学習を促進させる取り組みがあり、適切に支援を行っている。	3
	学生の自主的な学習を促進させる取り組みはあるが、支援が不十分である。	2
	学生の自主的な学習を促進させる取り組みがない。	1

【評価の視点 5-3】 障がいのある学生、留学生など多様な学生への支援体制を整備し、実施していること。

●基本情報：多様な学生への支援体制、取り組みを記入してください。

障がいのある学生、留学生など多様な学生への支援について、以下のとおり全学的な支援体制を整備し、実施している

- ・ 障がい学生支援委員会を設置し、事務職員、教員、学生相談室、医務室等が連携して入学、修学、学生生活等障がいのある学生の支援に必要なこと全般を協議、情報共有している。
- ・ 合格発表後、障がいのある学生及び修学に不安のある学生、家族を対象に入学前面談を実施している。
- ・ 配慮願い制度により、修学に際し一定の配慮が必要な学生に対し、面談のうえ配慮願いを作成し、配慮内容を関係教員と共有している。
- ・ 本学では、原則、自家用車での通学を許可していないが、身体に障がいがあり、公共交通機関での通学が困難な学生に対し、車輛（自家用車）での通学を認める「自動車通学許可証」を発行している。
- ・ 国際交流課は、留学生に関する業務の専門部署として、留学生の日本における生活全般の指導、授業料免除や奨学金に関する情報提供などの支援を行っている。

【自己評価 5-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	多様な学生への支援体制があり、適切に支援を行っている。	3
○	多様な学生への支援体制はあるが、支援が不十分である。	2
	多様な学生への支援体制がない。	1

【評価の視点 5-4】学生生活の安定のために、奨学金その他の支援制度を整備していること。

●基本情報：奨学金その他の経済的な支援制度を記入してください。

学生生活の安定のために、以下のとおり奨学金制度等の支援制度を整備している。 免除制度：酪農学園大学授業料免除、酪農学園大学大規模災害等特別授業料等免除、兄弟姉妹等同時修学授業料免除 給付制度：酪農学園大学給付奨学金、酪農学園大学特待生 貸与制度：酪農学園大学奨学金貸与
--

【自己評価 5-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	奨学金その他の経済的な支援制度があり、適切に支援を行っている。	3
○	奨学金その他の経済的な支援制度はあるが、支援が不十分である。	2
	奨学金その他の経済的な支援制度がない。	1

【評価の視点 5-5】心身の健康、保健衛生等に係る相談等に適切に対応するためにカウンセリング等の指導相談体制を整備し、実施していること。

●基本情報：心身の健康、保健衛生等に係る相談体制を記入してください。

心身の健康、保健衛生等に係る相談等に適切に対応するためにカウンセリング等の指導相談体制を以下のとおり整備し、実施している。

医務室：保健師 2 名（うち、非常勤 1 名）、看護師 1 名で、日常の応急処理・健康相談に対応している。

- ・ 4 月は定期健康診断を実施し、所見のあった者は呼出し、健康相談や受診勧奨をしている。
- ・ 毎週木曜日昼休み（12：00～13：00）は、学校医相談日を設け実施している。
- ・ 入学前には「健康管理カード」を提出してもらい、入学後の体調管理に役立てている。
- ・ 精神的な問題を抱えている学生については、学生相談室や支援に必要な関係部署に繋げるなどの連携をとっている。
- ・ 医療互助会制度もあり、受診状況について学生と情報交換し健康相談に繋がられる体制もとっている。

学生相談室：本学では、1986 年に学生相談室を開設し、2016 年度から学校医と学生相談室長を本学教授（医師）が担っている。

- ・ 日常的には 2 名の臨床心理士が学生相談室に常駐し、学生の心身の健康に関するカウンセリングを行っている。
- ・ 1 名の非常勤臨床心理士が中心となりグループカウンセリングを実施している。
- ・ 月に一度、発達障害を専門とする小児精神科医が学生の相談にあたり、医療機関等への所見作成を含めたメンタルケアに携わっている。

【自己評価 5-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	心身の健康、保健衛生等に係る相談体制があり、適切に実施している。	3
	心身の健康、保健衛生等に係る相談体制はあるが、十分な対応ができていない。	2
	心身の健康、保健衛生等に係る相談体制がない。	1

【評価の視点 5-6】 学生の人権を保障し、ハラスメントの防止に十分に配慮していること。

●基本情報：ハラスメント防止のための規程、体制を記入してください。

学生の人権を保障し、ハラスメントの防止に配慮するため、ハラスメント防止及び解決委員会（事務局：学務課）を設置し、以下のとおり酪農学園大学ハラスメント対策規程に従って全学的に対応している。学生には、入学時に酪農学園大学ハラスメント防止ガイドラインを配布して周知を行っている。

- ・ 2015 年 2 月 1 日に「酪農学園大学ハラスメント対策規程」を制定、同年 4 月より学内にインテイク（教職員）を選出し、学生がより相談しやすい環境づくりを実施。守秘義務の徹底、安心して相談できるように努めている。
- ・ 学生に対しては、入学時にガイドラインを配布・説明し、相談窓口・インテイクについて掲示板等を利用し周知している。
- ・ 相談は、必ず複数のインテイクで事実確認を実施。相談内容により、「注意」「調停」「申立」に分類され、関係各部署と協議し本人の望む対応をしている。
- ・ 「申立」となった場合は、当該者から「申立書」の提出を受け、学長を委員長とする「全学ハラスメント防止及び解決委員会」（以下、「委員会」と言う）が開催、そこで「ハラスメント事実調査委員会」（以下、「事実調査委員会」と言う）構成員（3 名）が選出、調査委嘱される。
- ・ 事実調査委員会では、申立者及び被申立者双方から事実調査・確認を行い、調査結果を委員会へ通知する。
- ・ 委員会では、事実調査委員会からの調査結果に基づき最終決定及び不服申立の対応等がされる。その後、学校法人に報告し、処分等が決定。申立者及び被申立者の双方に通知される。

【自己評価 5-6-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	ハラスメント防止のための規程がある。	3
	ハラスメント防止のための規程がない。	2

【自己評価 5-6-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	ハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
○	ハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	ハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

<進路支援>

【評価の視点 5-7】進路支援に関する組織体制を整備して、進路選択に関わる指導・ガイダンス等を適切に実施していること。

●基本情報：進路支援に関する体制、取り組みを記入してください。

以下のとおり、進路支援に関する組織体制を整備し、全学的に進路選択に関わる指導・ガイダンス等を実施している。

- ・ 1、5、6 年生を対象としたガイダンスの実施（4 月実施、6 年生には就職レディネス・チェック受験も同時実施）
- ・ 5 年生を対象にアセスメントテスト実施（6 月）。その結果を進路登録ガイダンス（7 月）時に受験者全員にフィードバックしている。
- ・ 6 年生を主対象に公務員獣医師合同説明会、動物病院合同説明会を、5～6 月に学内で実施（4・5 年生も可）
- ・ 就職支援講座（マナー講座、インターンシップ、自己 PR、志望動機ほか）を随時実施しているほか、公務員受験対策講座（1～5 年生）を実施している。

【自己評価 5-7】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	進路支援に関する体制があり、適切に実施している。	3
○	進路支援に関する体制はあるが、実施が不十分である。	2
	進路支援に関する体制がない。	1

※ 評価の視点 5-1～7 に関する自己点検・評価の概要・長所・問題点を箇条書きなどで簡潔に記載してください。

評価の視点 5-1

- ・ 自己点検・評価の概要：学生生活に関する相談・支援体制を整備し、支援している。
- ・ 長所：全学的な体制で学生生活に関する相談・支援体制を整備し、支援している。

評価の視点 5-2

- ・ 自己点検・評価の概要：学生への修学支援については、e ラーニングによる予習・復習・自習教材の作成・活用を進めている。
- ・ 長所：附属動物医療センター等における臨床映像の教材化や、オンデマンド配信により臨床実習の事前学習促進を行っている。

評価の視点 5-3

- ・ 自己点検・評価の概要：障がいのある学生、留学生など多様な学生への支援体制を整備し、実施している。
- ・ 長所：多様な学生への支援体制として、全学的に各部署が連携して面談、情報共有を行うと共に、配慮願い制度により、修学に際し一定の配慮が必要な学生に対し合理的配慮を行っている。
- ・ 問題点：障がいのある学生、留学生など多様な学生への支援には様々な対応策が必要であり、苦慮することも多い。

評価の視点 5-4

- ・ **自己点検・評価の概要**：奨学金制度等の支援制度を整備している。
- ・ **長所**：授業料免除制度、給付型奨学金制度、奨学金貸与制度など多様な支援制度を整備している。
- ・ **問題点**：近年、自然災害や経済的困窮によって支援を必要とする学生が増える傾向にあり、大学経営とのバランスを考慮する必要がある。

評価の視点 5-5

- ・ **自己点検・評価の概要**：心身の健康、保健衛生等に係る相談等に適切に対応するためにカウンセリング等の指導相談を実施している。
- ・ **長所**：医務室では、4月に実施する定期健康診断で所見のあった学生を呼出し、健康相談や受診勧奨をしている。また、学生相談室では、学校医と学生相談室長を本学教授（医師）が担っている。

評価の視点 5-6

- ・ **自己点検・評価の概要**：全学的な体制で学生の人権を保障し、ハラスメントの防止に配慮している。
- ・ **長所**：ハラスメント防止及び解決委員会を設置し、酪農学園大学ハラスメント対策規程に従って全学的に対応している。
- ・ **問題点**：ハラスメントの内容は様々であり、現状では担当者の経験値も少なく、対応に苦慮する場合もある。

評価の視点 5-7

- ・ **自己点検・評価の概要**：進路支援に関する組織体制を整備し、全学的に進路選択に関わる指導・ガイダンス等を実施している。
- ・ **長所**：獣医学類 5 年生の進路登録時には個別面談を原則としており、面談を通して学生のニーズ把握、各種情報提供を行っている。
- ・ **問題点**：合同説明会以外の就活イベントに、いかに関心を持ってもらうかが当面の課題である。

6 教育研究等環境

<施設・設備>

【評価の視点 6-1】 獣医学教育に必要な講義室、実習・実験室、研究室等の施設を整備していること。

【自己評価 6-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	獣医学教育に必要な講義室、実習・実験室、研究室等の施設を整備している。	3
	獣医学教育に必要な講義室、実習・実験室、研究室等の施設が不十分である。	2
	獣医学教育に必要な施設がない。	1

● 獣医学教育に必要な施設・設備に不足がある場合、その施設・設備を記入してください。

現状では、獣医学教育に必要な設備・施設は概ね整っている。

【評価の視点 6-2】 獣医学教育研究に必要な学術情報資料を整備し、学生及び教員が適切に情報を入手できるよう対応を行っていること。

【自己評価 6-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	獣医学教育に必要な学術情報資料を整備している。	3
	獣医学教育に必要な学術情報資料が不十分である。	2
	獣医学教育に必要な学術情報資料がない。	1

● 獣医学教育に必要な学術情報資料の学生や教員への提供方法を記入してください。

獣医学教育研究に必要な学術情報を入手できるように以下の対応を実施している。

- ・ 図書館では、学習に必要な開館時間と座席数を十分に確保している。
- ・ 図書館内に開架式で関係図書・雑誌を所蔵しており、閉架式の資料も OPAC（公開所蔵目録）上で検索できる。
- ・ 図書館内に限らず、学内 LAN に接続した端末より Scopus や Web of Science をはじめとした Web 上の学術データベース及び電子ジャーナルへアクセスできる。

● 獣医学教育に必要な学術情報資料に不足がある場合、その学術情報資料を記入してください。

現状では、獣医学教育に必要な学術情報資料は概ね整っている。

【評価の視点 6-3】動物実験倫理・動物福祉に配慮した実験動物の飼養に関する施設・設備を整備していること。

●基本情報：実験動物に関する施設の整備状況について下記の項目に該当するかどうかを記入してください。

記載方法：○＝該当する、△＝代替で対応（備考で説明）、×＝該当しない

項目			該当／非 該当	備考（代替など）
動物施設	機能と 設計	1. 飼育動物種に応じた環境になっている。	○	
		2. 関係者以外の立ち入りを防ぐ構造になっている。	○	
		3. 動物の外部からの侵入を防ぐ構造になっている。	○	
		4. 動物の逃亡を防ぐ構造になっている。	○	
	飼育室	5. 清掃のために必要な措置がとられている。	○	
		6. 全ての表面は、飼育や清掃、その他の作業に耐えうるものになっている。	○	
		7. 床面は平滑かつ滑りにくいものになっている。	○	
		8. 動物や人にとって安全衛生上有害・危険なものは飼養されていない。	○	
		9. 排水孔がある場合、外部からの侵入や、逃亡防止のための適切な蓋等が設置されている。	○	
		10. 感染動物飼育室が設置されている。	△	附属動物医療センター3F 実験動物管理室、附属動物医療センター感染動物管理棟
	準備室 等	11. 診断や死後検査を行うことのできる設備が設置されている。	△	附属動物医療センター3F 感染症病理診断室、附属動物医療センター感染動物管理棟処理検査室、動物処理棟病理解剖室
		12. 検疫や疾病に罹患した動物のための隔離室が整備されている。	×	
	保管・ 管理室	13. 飼料・床敷きを衛生的に管理できる環境となっている。	○	
		14. 排泄物・死体を衛生的に保管できる設備が整っている。	△	動物実験ステーション堆肥舎、犬舎焼却炉
飼育環境と その管理	15. 使用者の安全と衛生が確保されている。	○		
	16. 飼育管理責任者がいる。	○		

	17. 換気を十分に行うことのできる環境を整えている。	○	
	18. 動物種に応じた温度と湿度の管理を行うことができる設備が設置されている。	○	
	19. 動物種に応じた明暗周期の制御できる設備が備わっている。	○	
	20. 緊急時の連絡先が掲示されている。	○	
実験の審査体制・教育訓練	21. 施設を用いて行う動物実験が、然るべき委員会で審査される体制になっている。	○	
	22. 飼育に関わる者は事前に教育訓練を受ける体制になっている。	○	

【自己評価 6-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	全てが○である。	4
	○が8割以上であり、かつ残りが全て△である。	3
○	×が2つ以内である。	2
	×が3つ以上である。	1

【評価の視点 6-4】 動物実験倫理・動物福祉に配慮した動物実験に関する学内規則・飼養管理マニュアル等を整備していること。

●基本情報：動物実験に関する学内規則・飼養管理マニュアル等の書類を添付するか、公開しているウェブサイトのURLを記入してください。

	書類添付 (添付=○)	ウェブサイトのURL
学内規則	○	本学ホームページの「情報公開」のページより http://www.rakuno.ac.jp/discrose.html ○酪農学園大学動物実験委員会規程 http://www.rakuno.ac.jp/wp-content/uploads/2014/09/f55bb5a3e53c7f13d4b538ee693965be.pdf ○酪農学園大学動物実験指針 http://www.rakuno.ac.jp/wp-content/uploads/2014/09/39342f11b8d0874354e74adb6c5f1847.pdf ○動物の安楽死に関する指針 http://www.rakuno.ac.jp/wp-content/uploads/2015/06/c58c56b4b5bff876fff1a793f398cfb3.pdf ○動物実験に関する自己点検・評価報告書 http://s3-ap-northeast-1.amazonaws.com/www.rakuno.ac.jp/wp-content/uploads/2016/06/17125903/8b5501544d4c089545176fbe34c77e6d.pdf

飼養 管理 マニ ュアル	○	○酪農学園大学実験動物の飼養及び保管に関する基準 http://www.rakuno.ac.jp/wp-content/uploads/2014/09/338dd822807d9f987e0afc6bd40ad345.pdf
-----------------------	---	---

【自己評価 6-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	学内規則及び飼養管理マニュアルがともに整備されている。	3
	学内規則もしくは飼養管理マニュアルいずれしかない。又は双方もしくはいずれか一方の内容に不備がある。	2
	学内規則及び飼養管理マニュアルがともに整備されていない。	1

【評価の視点 6-5】 学内規則に従い動物実験に関して監督指導する委員会を設置していること。

- 基本情報：動物実験に関して監督指導する委員会の委員名簿の書類を添付するか、公開しているウェブサイトのURLを記入してください。

	書類添付 (添付=○)	ウェブサイトのURL
委員会委員名簿	○	学外向けのサイトには公開していない。学内用サイトには委員会名簿一覧に掲載している。

【自己評価 6-5】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	動物実験に関して監督指導する委員会が設置され、十分に活動している。	3
	動物実験に関して監督指導する委員会設置されているが、活動が不十分である。	2
	動物実験に関して監督指導する委員会が設置されていない。	1

【評価の視点 6-6】 病原体等利用実験の法律等に基づいた学内規則・管理マニュアル等を整備していること。

- 基本情報：病原体等利用実験に関する学内規則・管理マニュアル等の書類を添付するか、公開しているウェブサイトのURLを記入してください。

	書類添付 (添付=○)	ウェブサイトのURL
学内規則	○	酪農学園大学病原体等安全管理委員会規程 学内サイトには公開
管理マニュアル	○	酪農学園大学病原体等安全管理規程 学内サイトには公開

【自己評価 6-6】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	学内規則及び管理マニュアルがともに整備されている。	3
	学内規則もしくは管理マニュアルのいずれしかない。又は、双方もしくはいずれか一方の内容に不備がある。	2
	学内規則及び管理マニュアルがともに整備されていない。	1

【評価の視点 6-7】 学内規則に従い病原体等利用実験に関して監督指導する委員会を設置していること。

- 基本情報：病原体等利用実験に関して監督指導する委員会の委員名簿の書類を添付するか、公開しているウェブサイトのアドレスを記入してください。

	書類添付 (添付=○)	ウェブサイトのURL
委員会委員名簿	○	学外向けのサイトには公開していない。学内用サイトには委員会名簿一覧に掲載している。

【自己評価 6-7】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	病原体等利用実験に関して監督指導する委員会が設置され、十分に活動している。	3
	病原体等利用実験に関して監督指導する委員会は設置されているが、活動が不十分である。	2
	病原体等利用実験に関して監督指導する委員会が設置されていない。	1

【評価の視点 6-8】 遺伝子組換え実験の法令に基づいた学内規則・管理マニュアル等を整備していること。

●基本情報：遺伝子組換え実験に関する学内規則・飼養管理マニュアル等の書類を添付するか、公開しているウェブサイトのURLを記入してください。

	書類添付 (添付=○)	ウェブサイトのURL
学内規則	○	酪農学園大学遺伝子組換え実験安全委員会規程 学内ホームページに掲載
管理マニュアル	○	酪農学園大学遺伝子組換え実験安全管理基準 学内ホームページに掲載

【自己評価 6-8】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	学内規則及び管理マニュアルがともに整備されている。	3
	学内規則もしくは管理マニュアルのいずれしかない。又は、双方もしくはいずれか一方の内容に不備がある。	2
	学内規則及び管理マニュアルがともに整備されていない。	1

【評価の視点 6-9】 学内規則に従い遺伝子組換え実験に関して監督指導する委員会を設置していること。

●基本情報：遺伝子組換え実験に関して監督指導する委員会の委員名簿の書類を添付するか、公開しているウェブサイトのアドレスを記入してください。

	書類添付 (添付=○)	ウェブサイトのURL
委員会委員名簿	○	学外向けのサイトには公開していない。学内用サイトには委員会名簿一覧に掲載している。

【自己評価 6-9】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	遺伝子組換え実験に関して監督指導する委員会が設置されている。	3
	遺伝子組換え実験に関して監督指導する委員会は設置されているが、活動が不十分である。	2
	遺伝子組換え実験に関して監督指導する委員会が設置されていない。	1

<各獣医学教育組織が設置する必要がある施設・設備>

【評価の視点 6-10】 附属獣医学教育病院の施設・設備を参加型臨床実習等の教育に活用できるように整備していること。

●基本情報：附属獣医学教育病院の施設・設備に関して、該当している項目に○を、該当しない項目に×をつけてください。

	項 目	該当／ 非該当
必 須 項 目	1. 小動物診察室：学生、教員、スタッフ（合計5名以上）が診察できる広さの室で、同一時間帯に同時に参加型臨床実習等を行う学生グループ数以上の数。	○
	2. 小動物処置室：処置台を1台以上有し、学生、教員、スタッフが症例の診断や処置を行うために必要な広さで、同一時間帯に同時に参加型臨床実習等を行う学生グループ数以上の数。	○
	3. 小動物臨床検査室：通常の診療に必要な検査ならびに参加型臨床実習等に必要な広さの室。	○
	4. 小動物X線検査室：X線診断装置を設置し、学生、教員、スタッフが検査を行うことができる広さの室。	○
	5. 小動物超音波検査室：超音波診断装置を設置し、学生、教員、スタッフが検査を行うことができる広さの室。	○
	6. 小動物内視鏡検査室：内視鏡と麻酔装置を設置し、学生、教員、スタッフが検査を行うことができる広さの室。	○
	7. 小動物理学療法室（リハビリ室）：学生、教員、スタッフが動物のリハビリに用いる室またはスペース。	○
必 須 項 目	8. 小動物手術準備室：必要な機器が設置され、学生、教員、スタッフが麻酔や手術準備を行うことができる広さの室。	○
	9. 小動物手術室：学生、教員、スタッフが余裕を持って手術を行うことができる広さの室（各手術室は手術内容等により異なる手術に対応できる）で、年間手術数に対応できる数。術中の手技等を観察できるモニター等の設置が望ましい。	○
	10. 小動物回復室：必要な機器を設置し、学生、教員、スタッフが術後の監視、管理を行う室。	○
	11. 小動物入院室：各種動物に対応した広さの室（処置室を併設）で、入院動物数に対応した数。	○
	12. 小動物集中治療室：術後や重症例などを集中治療する室。	○

必 須 項 目	13. 小動物隔離入院室：伝染する可能性のある感染症例を入院させる室。	○
	14. 薬剤・器材庫：診療に用いる薬剤（麻薬、毒薬、劇薬等を含む）、器材の倉庫。	○
	15. 滅菌室：滅菌器を設置し、診療や手術に用いる機器等を消毒・滅菌するための室。	○
	16. ロッカー室：学生、教員、スタッフの着替え室で、診療室と手術前室の両方にあることが望ましい。	×
	17. シャワー室：学生、教員、スタッフがシャワーを浴びるための室で、男女別が望ましい。	×
	18. カンファレンスルーム（症例検討・セミナー室）：投影設備、ディスプレイ、院内 LAN などを設置し、学生、教員、スタッフが症例の検討や講義に使用できる室で、同一時間帯に同時に検討、講義を行う学生グループ数以上の数。	○
	19. 大動物診療室：大型の枠場を設置し、学生、教員、スタッフが牛、馬の診療を行うことができる広さの室。	○
	20. 大動物入院室：罹患牛、馬を個別に収容できる室。	○
	21. 大動物手術室：手術関係者の安全に配慮した構造で、学生、教員、スタッフが牛、馬の全身麻酔手術を実施できる十分な広さの室。	○
	22. 大動物麻酔覚醒室：関係者の安全に配慮した構造で、学生、教員、スタッフが牛、馬の麻酔導入時と覚醒時に使用する室。	○
	23. 大動物手術台：牛、馬の全身麻酔時に使用する手術台。	○
任 意 項 目	1. 放射線治療装置：参加型臨床実習等に用いる。	○
	2. PET-CT：参加型臨床実習等に用いる。	×
	3. 筋電図、誘発脳波などの電気生理学的診断装置：参加型臨床実習等に用いる。	○
	4. C アーム X 線透視撮影装置：参加型臨床実習等に用いる。	○
	5. 超音波凝固装置：参加型臨床実習等に用いる。	×
	6. 手術用顕微鏡：参加型臨床実習等に用いる。	○
	7. 白内障手術関連装置：参加型臨床実習等に用いる。	○

【自己評価 6-10】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	必須項目のうち 20 項目（約 90%）以上、かつ任意項目のうち 5 項目以上が○である。	4
	必須項目のうち 18 項目（約 80%）以上、かつ任意項目のうち 3 項目以上が○である。	3
	必須項目のうち 16 項目（約 70%）以上、かつ任意項目のうち 2 項目以上が○である。	2
	必須項目のうち○が 15 項目以下である。	1

【評価の視点 6-11】附属獣医学教育病院で実施する参加型臨床実習及び日常の診療・教育等に必要な専任教員と臨床教員（教員）、及び病院専任獣医師、研修獣医師と動物看護師等の支援スタッフ（スタッフ）を配置していること。

●基本情報：附属獣医学教育病院の人員に関して、該当している項目に○を、該当しない項目に×をつけてください。

項 目	該当／ 非該当
1. 教員（専任教員、臨床教員等）：同一時間帯に同時に参加型臨床実習等に参加する学生数や学生グループ数に見合う教員数。	○
2. スタッフ（病院専任獣医師、研修獣医師、動物看護師等）：参加型臨床実習等を補助し、円滑に実施するために必要な数。	○
3. 薬剤を管理する獣医師または薬剤師：適正な薬剤管理に必要な数。	○
4. 事務管理者等：病院運営及び参加型臨床実習等に必要な事務管理ができる数。	○

【自己評価 6-11】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	上記 4 項目のいずれも○である。	4
	上記 4 項目のうち 3 項目は○であるが、教員、スタッフの負担が大きい。	3
	上記 4 項目のうち薬剤管理と事務管理は適正であるが、教員数及びスタッフ数が不足している。	2
	上記いずれの項目も十分な数のスタッフが配置されていない。	1

【評価の視点 6-12】 附属獣医学教育病院で参加型臨床実習等のために十分数の患者（症例）を診療していること。

●基本情報：附属獣医学教育病院の症例数に関して、該当している項目に○を、該当しない項目に×をつけてください。

項 目	該当 ／非該当
1. 小動物（犬、猫、エキゾチックペット等）の年間延症例数（初診と再診をいずれも含む）が1学年の学生1人あたり50頭以上であり、かつ参加型臨床実習等で学生に十分な数の症例を経験させている。	○
2. 牛、馬の症例を診療し、参加型臨床実習等で学生にも十分な数の症例を経験させている。	○
3. 農業共済診療施設等と連携し、学生に十分な数の牛の症例を経験させている。	○
4. 豚、綿羊、山羊、鶏、その他の動物種を診療し、学生に経験させている	×（鶏）

【自己評価 6-12】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	小動物の診療数及び学生の実験症例数は十分である。かつ学内の大動物診療施設または共済診療施設等での学生の大動物実験症例数も十分である。また、その他の動物の診療も経験させている。	4
	小動物の診療数及び学生の実験症例数は十分である。大動物症例は、すべて農業共済診療施設の協力のもとで実施しているが、適正に連携し学生には十分な数の症例を経験させている。他の動物種の診療は行っていない。	3
	小動物の診療数及び学生の実験症例数は十分である。大動物の症例数は十分ではない。他の動物種の診療は行っていない。	2
	小動物診療数、大動物診療数とも十分ではなく、学生に十分な数を経験させていない。	1

【評価の視点 6-13】 附属獣医学教育病院において参加型臨床実習等を適切に実施していること。

- 基本情報：附属獣医学教育病院における参加型臨床実習等に関して、該当している項目に○を、該当しない項目に×をつけてください。

項 目	該当 /非該当
1. 飼い主及び院内スタッフとのコミュニケーション法や診療時の注意点について、実習前に学生に適切に説明している。	○
2. 実習の際の服装等に関して、学生に指示している。	○
3. 実習で経験した症例に関して実習後に学生に発表させ、教員、スタッフと討論している。	○
4. 附属獣医学教育病院に来院する飼い主に対して、学生が実習生として診療に参加することを適切に明示し周知している。	○
5. 学生が診療に参加することについて、必ず診療前に飼い主の了解を得ている。	○
6. 学生が行う獣医療行為に関するガイドラインを設けている。	○
7. 学生が動物を損傷した際の飼い主に対する補償について対応している。	×

【自己評価 6-13】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	6項目以上を満たしている。	4
	4ないし5項目を満たしている。	3
	3項目を満たしている。	2
	満たしているのは2項目以下である。	1

【評価の視点 6-14】 附属獣医学教育病院が、獣医学教育（学士課程）の実施のために十分に活用されていること。

- 基本情報：申請年度までの5年間において附属獣医学教育病院を獣医学教育（学士課程）に活用した状況を記入してください。

年度	科目名／講習会名	対象学年（人数）	参照資料等
2017	生産動物医療アドバンスコース	6年（20名）	2012年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014年度入学生シラバス
	生産動物医療クリニカルローテーション	5年（20名）	2013年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014年度入学生シラバス
	生産動物内科学実習B	4年（139名）	2014年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014年度入学生シラバス
	生産動物外科学実習	4年（139名）	2014年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014年度入学生シラバス
	伴侶動物医療基礎実習C	4年（139名）	2014年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014年度入学生シラバス
	伴侶動物医療アドバンスコース	6年（24名）	2012年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014年度入学生シラバス
	伴侶動物医療クリニカルローテーション	5年（26名）	2013年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014年度入学生シラバス
	伴侶動物医療臨床実習	4年（135名）	2014年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014年度入学生シラバス
	病院実習専修コース（生産動物）	5・6年（12名）	2012年度酪農学園大学履修ガイド 2013年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014年度入学生シラバス
	病院実習専修コース（伴侶動物）	5・6年（81名）	2012年度酪農学園大学履修ガイド 2013年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014年度入学生シラバス
	基礎演習I	1年（147名）	2017年度酪農学園大学履修ガイド 2015年度以降入学生シラバス
2016	生産動物医療アドバンスコース	6年（24名）	2011年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014年度入学生シラバス
	生産動物医療クリニカルローテーション	5年（20名）	2012年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014年度入学生シラバス
	生産動物内科学実習B	4年（135名）	2013年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014年度入学生シラバス
	生産動物外科学実習	4年（135名）	2013年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014年度入学生シラバス

	伴侶動物医療基礎実習 C	4 年 (135 名)	2013 年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014 年度入学生シラバス
	伴侶動物医療アドバンス コース	6 年 (26 名)	2011 年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014 年度入学生シラバス
	伴侶動物医療クリニカル ローテーション	5 年 (24 名)	2012 年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014 年度入学生シラバス
	伴侶動物医療基礎実習 A	3 年 (135 名)	2014 年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014 年度入学生シラバス
	伴侶動物医療基礎実習 B	4 年 (137 名)	2013 年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014 年度入学生シラバス
	伴侶動物医療臨床実習	4 年 (137 名)	2013 年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014 年度入学生シラバス
	病院実習専修コース (生産 動物)	5・6 年 (5 名)	2011 年度酪農学園大学履修ガイド 2012 年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014 年度入学生シラバス
	病院実習専修コース (伴侶 動物)	5・6 年 (21 名)	2011 年度酪農学園大学履修ガイド 2012 年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014 年度入学生シラバス
2015	アドバンスコース (生産)	6 年 (24 名)	2010 年度酪農学園大学履修ガイド 2004-2010 年度入学生シラバス
	生産動物医療クリニカル ローテーション	5 年 (24 名)	2011 年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014 年度入学生シラバス
	アドバンスコース (伴侶)	6 年 (27 名)	2010 年度酪農学園大学履修ガイド 2004-2010 年度入学生シラバス
	伴侶動物医療クリニカル ローテーション	5 年 (26 名)	2011 年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014 年度入学生シラバス
	獣医基礎演習	2 年 (9 名)	2014 年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014 年度入学生シラバス
	獣医臨床基礎演習	2 年 (135 名)	2014 年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014 年度入学生シラバス
	生産動物内科学実習 B	4 年 (134 名)	2012 年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014 年度入学生シラバス
	生産動物外科学実習	4 年 (134 名)	2012 年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014 年度入学生シラバス
	伴侶動物医療基礎実習 A	3 年 (136 名)	2013 年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014 年度入学生シラバス
	伴侶動物医療基礎実習 B	4 年 (129 名)	2012 年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014 年度入学生シラバス
	伴侶動物医療臨床実習	4 年 (128 名)	2012 年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014 年度入学生シラバス

	病院実習専修コース（生産動物）	5・6年（10名）	2010年度酪農学園大学履修ガイド 2011年度酪農学園大学履修ガイド 2004-2010年度入学生シラバス 2011-2014年度入学生シラバス
	病院実習専修コース（伴侶動物）	5・6年（27名）	2010年度酪農学園大学履修ガイド 2011年度酪農学園大学履修ガイド 2004-2010年度入学生シラバス 2011-2014年度入学生シラバス
2014	アドバンスコース（生産）	6年（23名）	2009年度酪農学園大学履修ガイド 2004-2010年度入学生シラバス
	クリニカルローテーション（生産）	5年（24名）	2010年度酪農学園大学履修ガイド 2004-2010年度入学生シラバス
	アドバンスコース（伴侶）	6年（24名）	2009年度酪農学園大学履修ガイド 2004-2010年度入学生シラバス
	クリニカルローテーション（伴侶）	5年（27名）	2010年度酪農学園大学履修ガイド 2004-2010年度入学生シラバス
	獣医基礎演習	2年（5名）	2013年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014年度入学生シラバス
	獣医臨床基礎演習	2年（137名）	2013年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014年度入学生シラバス
	生産動物内科学実習B	4年（150名）	2011年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014年度入学生シラバス
	生産動物外科学実習	4年（142名）	2011年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014年度入学生シラバス
	伴侶動物医療基礎実習A	3年（131名）	2012年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014年度入学生シラバス
	伴侶動物医療基礎実習B	4年（142名）	2011年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014年度入学生シラバス
	伴侶動物医療臨床実習	4年（144名）	2011年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014年度入学生シラバス
	病院実習専修コース（生産動物）	5・6年（1名）	2009年度酪農学園大学履修ガイド 2010年度酪農学園大学履修ガイド 2004-2010年度入学生シラバス
	病院実習専修コース（伴侶動物）	5・6年（5名）	2009年度酪農学園大学履修ガイド 2010年度酪農学園大学履修ガイド 2004-2010年度入学生シラバス
2013	アドバンスコース（生産）	6年（17名）	2008年度酪農学園大学履修ガイド 2004-2010年度入学生シラバス
	クリニカルローテーション（伴侶）	5年（23名）	2009年度酪農学園大学履修ガイド 2004-2010年度入学生シラバス

	アドバンスコース（伴侶）	6 年（27 名）	2008 年度酪農学園大学履修ガイド 2004-2010 年度入学生シラバス
	クリニカルローテーション（伴侶）	5 年（24 名）	2009 年度酪農学園大学履修ガイド 2004-2010 年度入学生シラバス
	獣医基礎演習	2 年（4 名）	2012 年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014 年度入学生シラバス
	獣医臨床基礎演習	2 年（133 名）	2012 年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014 年度入学生シラバス
	生産動物内科学実習 B	4 年（148 名）	2010 年度酪農学園大学履修ガイド 2004-2010 年度入学生シラバス
	生産動物外科学実習	4 年（148 名）	2010 年度酪農学園大学履修ガイド 2004-2010 年度入学生シラバス
	伴侶動物医療基礎実習 A	3 年（149 名）	2011 年度酪農学園大学履修ガイド 2011-2014 年度入学生シラバス
	伴侶動物医療基礎実習 B	4 年（146 名）	2010 年度酪農学園大学履修ガイド 2004-2010 年度入学生シラバス
	伴侶動物医療基礎実習 C	4 年（148 名）	2010 年度酪農学園大学履修ガイド 2004-2010 年度入学生シラバス
	伴侶動物医療臨床実習	4 年（148 名）	2010 年度酪農学園大学履修ガイド 2004-2010 年度入学生シラバス
	病院実習専修コース	5・6 年（20 名）	2008 年度酪農学園大学履修ガイド 2009 年度酪農学園大学履修ガイド 2004-2010 年度入学生シラバス

【自己評価 6-14】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	総合参加型臨床実習及び 4 科目以上の臨床獣医学関連の教育科目で活用されている。	4
	総合参加型臨床実習及び 2 科目以上の臨床獣医学関連の教育科目で活用されている。	3
	2 科目以上の臨床獣医学関連の教育科目で活用されているが、総合参加型臨床実習は実施されていない。	2
	上記以外である。	1

＜各獣医学教育組織が選択して設置することが望ましい附属施設＞

【評価の視点 6-15】大学ごとに特徴ある附属施設を有しているか。

●基本情報：附属施設の名称及びその機能について、記入してください。

○臨床獣医学教育研究棟
vetOSCE ならびにスキルスラボに対応している。2017 年 2 月より稼働し、実際の vetOSCE も実施した。
○動物薬教育研究センター
附属動物医療センターの一部門として位置付け、動物薬に関する教育・研究、動物薬開発のための基礎・応用試験、臨床試験、相談、調査・検査業務などを行う。2017 年 4 月より運用を開始し、動物薬教育研究部（教員）、動物薬管理部及び動物薬資料管理部として、各部 1 名、計 3 名の教職員を配置している。

【自己評価 6-15】附属施設の特徴について、記入してください（任意）。

○酪農学園フィールド教育研究センター
本センターには、酪農生産ステーション、肉畜生産ステーション、作物生産ステーションがあり、フィールドを活用した教育研究の充実を図るために様々な施設等が整備されている。酪農生産ステーションは、草地・飼料畑 55ha 及び乳牛 170 頭を擁し、フリーストール牛舎、ロボット搾乳牛舎、繋ぎ飼い牛舎等の施設が整備され、キャンパス内に牧歌的な景観を見せている。江別市元野幌に位置する肉畜生産ステーションは、肉牛（黒毛和種や日本短角種）・豚・鶏・めん羊の飼養管理施設と飼料生産圃場等が整備されている。作物生産ステーションには、環境制御型のガラスハウス、ビニールハウス、実習棟、農機具庫等の施設と露地圃場が整備されている。これらのステーションでは、1 年生全員の必修科目となっている農場実習をはじめ、専門教育の実験・実習・演習など、多様な教科の授業科目が展開されるほか、教員・学生の研究フィールドとして高密度に活用されている。これらの施設・設備には農畜産関係者ばかりでなく、広範な学会、団体、市民団体などから 多くの見学者が訪れ、農畜産業に関する最新技術の啓蒙・普及の場としても利用されている。

＜研究倫理や研究・診療活動の不正防止＞

【評価の視点 6-16】研究倫理や研究・診療活動の不正防止に関する規定を明文化していること。

【自己評価 6-16】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	研究倫理や研究・診療活動の不正防止に関する規定がある。	3
	研究倫理や研究・診療活動の不正防止に関する規定があるが、不十分である。	2
	研究倫理や研究・診療活動の不正防止に関する規定がない。	1

【評価の視点 6-17】 研究倫理や研究・診療活動の不正防止に関する適切な組織のもと、これらに関わる教育を行うなど研究倫理や研究・診療活動の不正防止の遵守を図っていること。

●基本情報：研究倫理や研究・診療活動の不正防止に関する適切な組織、研究倫理や研究・診療活動の不正防止に関する取り組みについて、記入してください。

本学における、研究倫理及び研究費や外部資金等の使用に関する不正防止については、次の規程等を設けて、全学的に周知を行い、組織的に管理・運営をしている。

- ・酪農学園大学行動規範（2014 年 11 月 1 日制定）
- ・酪農学園大学公的資金不正防止計画（2014 年 10 月 1 日制定）
- ・酪農学園大学研究費等の取扱いに関する規程（2013 年 6 月 4 日制定）
- ・酪農学園大学科学研究費助成事業取扱要領（2011 年 4 月 1 日制定）

また、内部監査室を理事長のもとに設けて、学園の業務全般について、法令及び学園が定める諸規程並びに社会的規範等に則り適正に執行されているかを公正かつ客観的な立場で検討及び評価し、学園の発展にとって有効な改善、改革案の助言を行っている。

診療活動の不正防止については、酪農学園大学附属動物医療センター規程（2016 年 4 月）を設けて適切に対応している。また、附属動物医療センター運営委員会規程に基づき、診療・教育・研究及び管理運営に関する実務的事項を協議している。

2015 年度より、研究に関わるすべての教員ならびに大学院生が、CITI Japan プロジェクト e-ラーニングシステムによる研究倫理教育を受講し、その修了証を大学に提出している。

【自己評価 6-17】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	研究倫理や研究・診療活動の不正防止に関する組織があり、十分な取り組みが行われている。	3
	研究倫理や研究・診療活動の不正防止に関する組織はあるが、取り組みが十分ではない。	2
	研究倫理や研究・診療活動の不正防止に関する組織がない。	1

<国際性を踏まえた教育環境の整備>

【評価の視点 6-18】 学生の海外派遣及び受け入れを適切に行っていること。

●基本情報：申請年度までの5年間に獣医学教育組織が行った学生の海外への派遣者数を記入してください。

年度	学生の海外への派遣者数	人数	備考
2017	タイ・カセサート大学への派遣	15 名	世界展開力強化事業、12 週間
2016	タイ・カセサート大学への派遣	10 名	世界展開力強化事業、12 週間
2015	タイ・カセサート大学への派遣	10 名	世界展開力強化事業、12 週間
2014	タイ・カセサート大学への派遣	13 名	世界展開力強化事業、12 週間
2014	米国・オハイオ州立大学への派遣	4 名	2 週間、教員引率
2013	米国・オハイオ州立大学への派遣	5 名	2 週間、教員引率

【自己評価 6-18-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	学生の海外派遣を5年間で2回以上行っている。	3
	学生の海外派遣を5年間で1回行っている。	2
	学生の海外派遣が5年間で1回もない。	1

●基本情報：申請年度までの5年間に獣医学教育組織が受け入れた留学生数を記入してください。

年度	留学生の国名	受け入れ人数	備考
2017	タイ・カセサート大学からの留学生	15 名	世界展開力強化事業、12 週間
2017	タイ・コンケン大学からの留学生	4 名	12 週間
2017	台湾・中興大学	3 名	3 週間
2016	タイ・カセサート大学からの留学生	20 名	世界展開力強化事業、12 週間
2016	台湾・中興大学	4 名	3 週間
2016	タイ・コンケン大学からの留学生	2 名	12 週間
2015	タイ・カセサート大学からの留学生	20 名	世界展開力強化事業、12 週間
2015	台湾・中興大学	3 名	3 週間
2014	タイ・カセサート大学からの留学生	20 名	世界展開力強化事業、12 週間

2014	台湾・中興大学	5 名	3 週間
2013	台湾・中興大学	4 名	3 週間
2013	台湾・嘉義大学	4 名	3 週間
2013	台湾・屏東科技大学	4 名	3 週間

【自己評価 6-18-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	留学生の受け入れを5年間で2回以上行っている。	3
	留学生の受け入れを5年間で1回行っている。	2
	留学生の受け入れが5年間で1回もない。	1

【評価の視点 6-19】当該獣医学教育におけるグローバル化を推進するための積極的な取り組みを行っているか。

【自己評価 6-19】当該獣医学教育におけるグローバル化を推進するための積極的な取り組みを記入してください。

本学獣医学群では、2015年3月に「獣医学群改革基本方針 2014」を策定し、酪農学園大学獣医学群のあるべき20年後の理想像を設定した。「獣医学群改革基本方針 2014」では、本学の建学の精神の一つである「健土健民」は今日急速に全世界でのグローバル化が進み多くの社会が分野を越えて複雑化する中で注目されている地球上のすべての生命に対してその健康を担保する「One World, One Health」の概念とほぼ同義語であり、この「One World, One Health」の中心を担うべきは獣医師および動物看護師であると位置づけ、健土健民思想のもとに実学教育を実践し、総合的な知識を持つ獣医師および動物看護師として「One World, One Health」を担える“人財”を輩出する大学教育を可能にする教員組織体制を含む教育体制の構築を目的とした。とくに、以下の3点に主眼を置いた教育および研究体制の整備を進めることとしている。

1. 社会貢献できる獣医学および動物看護学の教育および研究
2. 先進的で総合的な獣医学および動物看護学の教育および研究
3. 国際化に対応した獣医学および動物看護学の教育および研究

このうち、「3. 国際化に対応した獣医学および動物看護学の教育および研究」の体制整備を進めるため、European Association of Establishments for Veterinary Education (EAEVE) の認証評価を受けるべく、準備を開始している。

※ 評価の視点 6-1～19 に関する自己点検・評価の概要・長所・問題点を箇条書きなどで簡潔に記載してください。

評価の視点 6-1

- ・ **自己点検・評価の概要**：獣医学教育に必要な講義室、実習・実験室、研究室等の施設を整備している。
- ・ **長所**：現状では、獣医学教育に必要な設備・施設は概ね整っている。

評価の視点 6-2

- ・ **自己点検・評価の概要**：獣医学教育研究に必要な学術情報資料を整備し、学生及び教員が適切に情報を入手できるよう対応を行っている。
- ・ **長所**：図書館では、学習に必要な開館時間と座席数を十分に確保し、開架式で関係図書・雑誌を所蔵しており、閉架式の資料も OPAC（公開所蔵目録）上で検索できる。図書館内に限らず、学内 LAN に接続した端末より Scopus や Web of Science をはじめとした Web 上の学術データベース及び電子ジャーナルへアクセスできる。

評価の視点 6-3

- ・ **自己点検・評価の概要**：動物実験倫理・動物福祉に配慮した実験動物の飼養に関する施設・設備（動物実験ステーション、犬舎、鳥類・野生齧歯類飼育舎、感染症病理診断室の実験動物管理室）を概ね整備している。
- ・ **長所**：実験動物として、牛、馬、羊、山羊、豚、犬、猫、兎、マウス、ラット、鳥類、野生齧歯類など、幅広い動物種に対応できる使用保管施設を設置している。また、感染症病理診断室の実験動物管理室、附属動物医療センター感染動物管理棟など、感染実験可能な使用管理施設を設置している。
- ・ **問題点**：検疫や疾病に罹患した動物のための隔離室が十分に整備されているとは言い難い。以上の動物実験施設は、複数の離れた建物で構成されており、統合された施設ではない。

評価の視点 6-4

- ・ **自己点検・評価の概要**：動物実験倫理・動物福祉に配慮した動物実験に関する学内規則・飼養管理マニュアルを整備している。
- ・ **長所**：動物実験倫理・動物福祉に配慮した動物実験に関する学内規則・飼養管理マニュアルを大学 HP に公表している。

評価の視点 6-5

- ・ **自己点検・評価の概要**：学内規則に従い動物実験に関して監督指導する委員会を設置している。

評価の視点 6-6

- ・ **自己点検・評価の概要**：病原体等利用実験の法律等に基づいた学内規則・管理マニュアル等を整備している。
- ・ **長所**：教職員に対し、動物実験倫理・動物福祉に配慮した動物実験に関する学内規則・飼養管理マニュアルを学内サイトで閲覧できるようにしている。

評価の視点 6-7

- ・ **自己点検・評価の概要**：学内規則に従い病原体等利用実験に関して監督指導する委員会を設置している。

評価の視点 6-8

- ・ **自己点検・評価の概要**：遺伝子組換え実験の法令に基づいた学内規則・管理マニュアルを整備している。
- ・ **長所**：遺伝子組換え実験の法令に基づいた学内規則・管理マニュアルを大学 HP に公表している。

評価の視点 6-9

- ・ **自己点検・評価の概要**：学内規則に従い遺伝子組換え実験に関して監督指導する委員会を設置している。

評価の視点 6-10

- ・ **自己点検・評価の概要**：酪農学園大学附属動物医療センターを参加型臨床実習等の教育に活用できるように整備している。
- ・ **長所**：齊一教育での参加型臨床実習を可能にするため、2016 年 7 月に新施設の増築ならびに既存施設の改修工事を実施した。

評価の視点 6-11

- ・ **自己点検・評価の概要**：酪農学園大学附属動物医療センターで実施する参加型臨床実習及び日常の診療・教育等に必要な専任教員と臨床教員及び病院専任獣医師、研修獣医師と動物看護師等の支援スタッフを配置している。

評価の視点 6-12

- ・ **自己点検・評価の概要**：酪農学園大学附属動物医療センターでは、参加型臨床実習等のために概ね十分な数の症例を診療している。
- ・ **長所**：生産動物ならびに伴侶動物のいずれについても十分な症例数を確保している。
- ・ **問題点**：鶏についての診療件数が不足している。

評価の視点 6-13

- ・ **自己点検・評価の概要**：酪農学園大学附属動物医療センターにおいて参加型臨床実習を適切に実施している。
- ・ **長所**：2012 年に「参加型臨床実習ガイドライン」を策定し、2017 年に改定した。
- ・ **問題点**：参加型臨床実習学生が動物を損傷した際の飼主に対する補償についての対応を検討する必要がある。

評価の視点 6-14

- ・ **自己点検・評価の概要**：酪農学園大学附属動物医療センターを獣医学教育（学士課程）の実施のために十分に活用している。
- ・ **長所**：酪農学園大学附属動物医療センター規程において、附属動物医療センターを獣医学教育に活用することを明記している。

評価の視点 6-15

- ・ **自己点検・評価の概要**：臨床獣医学教育研究棟、動物薬教育研究センター、酪農学園ワールド教育研究センターなど、特徴ある附属施設を有している。
- ・ **長所**：動物薬教育研究センターは他の獣医系大学にはない附属施設であり、動物薬の開発研究も獣医学教育に取り入れる体制を整備している。

評価の視点 6-16

- ・ **自己点検・評価の概要**：研究倫理や研究・診療活動の不正防止に関する規定を明文化している。

評価の視点 6-17

- ・ **自己点検・評価の概要**：研究倫理や研究・診療活動の不正防止に関する適切な組織のもと、これらに関わる教育を行うなど研究倫理や研究・診療活動の不正防止の遵守を図っている。
- ・ **長所**：研究に関わる教員ならびに大学院生のすべてが、CITI Japan プロジェクト e-ラーニングシステムの研究倫理教育を受講し、その修了証を大学に提出している。

評価の視点 6-18

- ・ **自己点検・評価の概要**：学生の海外派遣及び受け入れを適切に行っている。
- ・ **長所**：文部科学省の世界展開力強化事業（AIMS プログラム）のもと、北海道大学及び東京大学とともにタイ・カセサート大学獣医学部へ学生（5 年）を派遣し、タイ・カセサート大学からの留学生を受入れ、単位互換教育を実施している。米国・オハイオ州立大学獣医学部への学生派遣、アジア（タイ：コンケン大学、台湾：中興大学、嘉義大学、屏東科技大学）からの留学生受入れも実施している。これらのプログラムは、今後も継続する。
- ・ **問題点**：これらの海外への学生派遣・海外からの留学生受入れプログラムに対応する学内組織が脆弱であり、改善すべく対策を検討中である。

評価の視点 6-19

- ・ **自己点検・評価の概要**：獣医学教育におけるグローバル化を推進するための積極的な取り組みを行っている。
- ・ **長所**：「3. 国際化に対応した獣医学および動物看護学の教育および研究」の体制整備を進めるため、European Association of Establishments for Veterinary Education (EAEVE) の認証評価を受けるべく、準備を開始した。
- ・ **問題点**：EAEVE 認証評価に対応する学内組織が脆弱であり、改善すべく対策を検討中である。

7 社会連携・社会貢献

<社会連携・社会貢献>

【評価の視点 7-1】生涯学習の機会を提供するため、獣医師を対象とした学術講習、研修等を実施していること。

●基本情報：申請年度までの5年間に獣医学教育組織が獣医師を対象に行った学術講習、研修等に関する情報を記入してください。

	年度	科目名／講習会名	対象（人数）	参照資料等
地域獣医師を対象とした学術講習、研修等	2017	大動物継続教育合同セミナー	産業動物獣医師等（204名）	http://exc.rakuno.ac.jp/study
	2016	大動物継続教育合同セミナー	産業動物獣医師等（223名）	http://exc.rakuno.ac.jp/study
		第51回酪農公開講座（八雲町）	産業動物獣医師、酪農家等（97名）	
		第52回酪農公開講座（長野県）	産業動物獣医師、酪農家等（105名）	
	2015	大動物継続教育合同セミナー	産業動物獣医師等（240名）	http://exc.rakuno.ac.jp/study
		第50回酪農公開講座（兵庫県）	産業動物獣医師、酪農家等（108名）	
	2014	大動物継続教育合同セミナー	産業動物獣医師等（206名）	http://exc.rakuno.ac.jp/study
		第48回酪農公開講座（山形県）	産業動物獣医師、酪農家等（110名）	
	2013	大動物継続教育合同セミナー	産業動物獣医師等（254名）	http://exc.rakuno.ac.jp/study

【自己評価 7-1-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	獣医師を対象とした学術講習、研修等を5年間で2回以上開催している。	4
	獣医師を対象とした学術講習、研修等を5年間で1回開催している。	3
	獣医師を対象とした学術講習、研修等を5年間で1回も開催していない。	2

●基本情報：申請年度までの5年間の附属獣医学教育病院を活用した卒後・生涯教育（獣医師・地域住民対象のセミナー等）に関する情報を記入してください。

	年度	科目名／講習会名	対象(人数)	参照資料等
地域獣医師を対象としたセミナー等	2017	麻酔ブートキャンプ 2017 in HOKKAIDO	伴侶動物獣医師（15名）	https://www.jsvas.net/committee/anesthanalg.html
		第8回伴侶動物医療学セミナー	伴侶動物獣医師（60名）	http://amc.rakuno.ac.jp/seminar.html
		第9回伴侶動物医療学セミナー	伴侶動物獣医師（60名）	http://amc.rakuno.ac.jp/seminar.html
		第10回伴侶動物医療学セミナー	伴侶動物獣医師（60名）	http://amc.rakuno.ac.jp/seminar.html
		第11回伴侶動物医療学セミナー	伴侶動物獣医師（60名）	http://amc.rakuno.ac.jp/seminar.html
		第12回伴侶動物医療学セミナー	伴侶動物獣医師（60名）	http://amc.rakuno.ac.jp/seminar.html
		第14回ゼノアックエクステンションセミナー	産業動物獣医師（60名）	http://www.zenoaq.jp/shakunage/2017/04/14-2.html
		第6回酪小獣「麦の会」総会	伴侶動物獣医師（50名）	http://amc.rakuno.ac.jp/member.html http://www.hokkaido-juishikai.jp/seminar
	2016	麻酔ブートキャンプ 2016 in HOKKAIDO	伴侶動物獣医師（15名）	https://www.jsvas.net/committee/anesthanalg.html
		第4回伴侶動物医療学セミナー	伴侶動物獣医師（60名）	http://amc.rakuno.ac.jp/seminar.html
		第5回伴侶動物医療学セミナー	伴侶動物獣医師（60名）	http://amc.rakuno.ac.jp/seminar.html
		第6回伴侶動物医療学セミナー	伴侶動物獣医師（60名）	http://amc.rakuno.ac.jp/seminar.html
		第7回伴侶動物医療学セミナー	伴侶動物獣医師（60名）	http://amc.rakuno.ac.jp/seminar.html
		第5回酪小獣「麦の会」総会	伴侶動物獣医師（50名）	http://amc.rakuno.ac.jp/member.html http://rakuno.org/article-28939.html
	2015	麻酔ブートキャンプ 2015 in HOKKAIDO	伴侶動物獣医師（15名）	https://www.jsvas.net/committee/anesthanalg.html

		第 1 回伴侶動物医療学セミナー	伴侶動物獣医師 (60 名)	http://amc.rakuno.ac.jp/seminar.html
		第 2 回伴侶動物医療学セミナー	伴侶動物獣医師 (60 名)	http://amc.rakuno.ac.jp/seminar.html
		第 3 回伴侶動物医療学セミナー	伴侶動物獣医師 (60 名)	http://amc.rakuno.ac.jp/seminar.html
		第 4 回酪小獣「麦の会」総会	伴侶動物獣医師 (50 名)	http://amc.rakuno.ac.jp/member.html http://rakuno.org/events/event
	2014	麻酔ブートキャンプ 2014 in HOKKAIDO	伴侶動物獣医師 (15 名)	https://www.jsvas.net/committee/anesthanalg.html
		第 3 回酪小獣「麦の会」総会	伴侶動物獣医師 (50 名)	http://amc.rakuno.ac.jp/member.html http://rakuno.org/article-18196.html
	2013	麻酔ブートキャンプ 2013 in HOKKAIDO	伴侶動物獣医師 (15 名)	https://www.jsvas.net/committee/anesthanalg.html
		第 2 回酪小獣「麦の会」総会	伴侶動物獣医師 (50 名)	http://amc.rakuno.ac.jp/member.html http://kouyukai.rakuno.org/post-4525.html
地域住民を対象としたセミナー等*	2017	ミルキーレディースセミナー	女性酪農家 (10 名)	http://amc.rakuno.ac.jp/seminar.html
	2016	ミルキーレディースセミナー	女性酪農家 (10 名)	http://amc.rakuno.ac.jp/seminar.html
	2015	ミルキーレディースセミナー	女性酪農家 (10 名)	http://amc.rakuno.ac.jp/seminar.html
	2014	ミルキーレディースセミナー	女性酪農家 (10 名)	http://amc.rakuno.ac.jp/seminar.html
	2013	ミルキーレディースセミナー	女性酪農家 (10 名)	http://amc.rakuno.ac.jp/seminar.html

*附属獣医学教育病院の特徴を活かした講演等であれば、他組織主催のセミナー・講演会でも構いません。

【自己評価 7-1-2】 下記の表 1 と表 2 に、当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

表 1. 地域獣医師対象のセミナー等の開催 (a)

自己評価	評価内容	判定
	平均年 10 回以上開催している。	4
	平均年 6 回以上開催している。	3
○	平均年 4 回以上、開催している。	2
	上記より少ない開催である。	1

表 2. 地域住民対象のセミナー等の開催 (b)

自己評価	評価内容	判定
○	平均年 1 回以上開催している。	3
	平均年 1 回以下の開催である。	2
	全く開催していない。	1

【評価の視点 7-2】生涯学習の機会を提供するため、一般市民を対象とした公開講座等を実施していること。

●基本情報：申請年度までの 5 年間に獣医学教育組織が一般市民を対象に行った公開講座等に関する情報を記入してください。

	年度	科目名／講習会名	対象（人数）	参照資料等
一般市民を対象としたセミナー等	2017	人と動物の素敵な関係講座Ⅰ	一般市民（30 名）	http://exc.rakuno.ac.jp/study
		人と動物の素敵な関係講座Ⅱ	一般市民（14 名）	
		人と動物の素敵な関係講座Ⅲ	一般市民（17 名）	
		野生動物医学、寄生虫講座	一般市民（13 名）	
		たのしい理科実験講座Ⅱ	一般市民（24 名）	
		円山動物園体験講座	一般市民（44 名）	
		獣医の卵たちによる勉強会（1 日目）	一般市民（43 名）	
		獣医の卵たちによる勉強会（2 日目）	一般市民（37 名）	
		ひらめき教室	小学 5 年生 6 年生（40 名）	http://exc.rakuno.ac.jp/area
		ミルクの力～海の動物の子育て戦略～	一般市民（50 名）	http://exc.rakuno.ac.jp/article-9037.html
	2016	人と動物の素敵な関係講座Ⅰ	一般市民（23 名）	http://exc.rakuno.ac.jp/study
		人と動物の素敵な関係講座Ⅱ	一般市民（26 名）	
		野生動物医学、寄生	一般市民（26 名）	

		虫講座		
		たのしい理科実験講座	一般市民（41名）	
		獣医の卵たちによる勉強会（1日目）	一般市民（34名）	
		獣医の卵たちによる勉強会（2日目）	一般市民（31名）	
		ひらめき教室	小学5年生6年生（44名）	
		酪農学園大学、北海道立総合研究機構連携協力協定締結記念シンポジウム	一般市民（185名）	
	2015	おたる水族館体験講座	一般市民（16名）	http://exc.rakuno.ac.jp/area
		人と動物の素敵な関係講座Ⅰ	一般市民（19名）	
		人と動物の素敵な関係講座Ⅱ	一般市民（23名）	
		人と動物の素敵な関係講座Ⅲ	一般市民（22名）	
		たのしい理科実験講座	一般市民（41名）	
		奇跡の生体寄生虫講座	一般市民（22名）	
		獣医の卵たちによる勉強会（1日目）	一般市民（38名）	
		獣医の卵たちによる勉強会（2日目）	一般市民（37名）	
		ふるさと江別塾	一般市民（66名）	
		第10回酪農学園大学公開講座（岡山県）	一般市民（51名）	
		ひらめき教室	小学5年生6年生（40名）	
				HP掲載なし
	2014	おたる水族館体験講座	一般市民（13名）	http://exc.rakuno.ac.jp/study
		人と動物の素敵な関係講座Ⅰ	一般市民（23名）	
		人と動物の素敵な関係講座Ⅱ	一般市民（28名）	
		人と動物の素敵な関係講座Ⅲ	一般市民（25名）	

		係講座Ⅲ		
		奇跡の生体寄生虫講座	一般市民（16名）	
		たのしい理科実験講座	一般市民（33名）	
		獣医の卵たちによる勉強会（1日目）	一般市民（50名）	
		獣医の卵たちによる勉強会（2日目）	一般市民（50名）	
		第9回酪農学園大学公開講座（宮城県）	一般市民（60名）	
	2013	小樽水族館体験講座	一般市民（10名）	http://exc.rakuno.ac.jp/study
		人と動物の素敵な関係講座Ⅰ	一般市民（18名）	
		人と動物の素敵な関係講座Ⅱ	一般市民（26名）	
		人と動物の素敵な関係講座Ⅲ	一般市民（22名）	
		人と動物の素敵な関係講座Ⅳ	一般市民（27名）	
		たのしい理科講座	一般市民（23名）	
		獣医の卵たちによる勉強会（1日目）	一般市民（30名）	
		獣医の卵たちによる勉強会（2日目）	一般市民（31名）	
		ふるさと江別塾	一般市民（39名）	

*獣医学教育課程の特徴を活かした講演等であれば、他組織主催のセミナー・講演会でも構いません。

【自己評価 7-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	一般市民対象のセミナー等を5年間で3回以上開催している。	4
	一般市民対象のセミナー等を5年間で2回開催している。	3
	一般市民対象のセミナー等を5年間で1回開催している。	2
	一般市民対象のセミナー等を5年間で全く開催していない。	1

※ 評価の視点 7-1、2 に関する自己点検・評価の概要・長所・問題点を箇条書きなどで簡潔に記載してください。

評価の視点 7-1

- ・ **自己点検・評価の概要**：生涯学習の機会を提供するため、獣医師を対象とした学術講習、研修等を実施している。
- ・ **長所**：伴侶動物医療獣医師に対して、様々な内容で生涯学習の機会を提供している。
- ・ **問題点**：生産動物医療学分野所属教員は、全国各地で開催される数多くの講習会等に講師として招聘されており、学内施設を利用した産業動物医療獣医師に対する生涯教育の機会が少ない。

評価の視点 7-2

- ・ **自己点検・評価の概要**：生涯学習の機会を提供するため、一般市民を対象とした公開講座等を実施している。
- ・ **長所**：一般市民、小学生などに数多くの生涯学習の機会を提供している。
- ・ **問題点**：講演を同じ教員が複数回担当することもあり、受講者はリピーターが多いことから、受講者にとっては同じ内容を聞くことになる場合がある。

8 点検・評価、情報公開

<自己点検・評価>

【評価の視点 8-1】自己点検・評価体制を整備していること。

●基本情報：自己点検・評価体制を記入してください。

自己点検・評価組織名	自己点検評価委員会
委員名（○：委員長）	○学長：竹花一成 学群長：堂地 修、及川 伸 研究科長：小野寺秀一、桐澤力雄 学類長：中辻浩喜、竹田保之、佐藤喜和、山下和人、北澤多喜雄 教育センター長：中出哲也 教育センター教務担当部長：丸山 明 学生部長：小宮道士 入試部長：翁長武紀 就職部長：金田 勇 図書館長：押谷一 附属動物医療センター長：廉澤 剛 E Xセンター所長：金子正美 教職センター長：岡島 毅 FEDREC センター長：竹花一成（兼） 学務部長：伊藤真美 事務局長：田中義則 事務局次長（総務）（財務）：廣岡 亨、加福幸枝
組織の開催頻度	日本高等教育評価機構による第三者評価の受審前に開催される
組織の取り組み内容	日本高等教育評価機構による第三者評価の受審
自己点検・評価結果の公表	大学のホームページで公開している http://www.rakuno.ac.jp/outline/effort/jiheec2.html

【自己評価 8-1-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

【自己評価 8-1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の結果を公表している。	3
	自己点検・評価の結果を公表しているが不十分である。	2
	自己点検・評価の結果を公表していない。	1

【評価の視点 8-2】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げる仕組みを整備していること。

【自己評価 8-2】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

○（公財）日本高等教育評価機構による大学評価

- ・ 酪農学園大学は、2014 年度（公財）日本高等教育評価機構による大学評価基準に適合していると認定され、その結果を評議会で報告し、学内外に評価結果の周知を行っている。

○私立大学等改革総合支援事業

- ・ 2016-2017 年度には、過去の私立大学等改革総合支援事業の選定結果とその評価内容について改善に繋げるための全学的なワーキンググループ「改革総合支援事業 WG」を設置して、自己点検・外部評価の評価サイクルを確立した。
- ・ 「改革総合支援事業 WG」によって、過去の選定結果において低い評価であった項目を改善するための解決策を検討実施した。その結果、評価点数は大きく改善したが、選定には到らなかった。今後も同様に「改革総合支援事業 WG」によって自己点検・外部評価の評価サイクルを継続し、大学の教育研究体制の改善に繋げていく。

<情報公開>

【評価の視点 8-3】獣医学教育課程のウェブサイトを整備していること。

●基本情報：獣医学教育課程に関するウェブサイトについて記述してください。

獣医学教育組織のウェブサイト（URL）	http://www.rakuno.ac.jp/department/veterinarygroup/veterinaryclass.html
ウェブサイト開設母体	全学
更新頻度	随時
ウェブサイトの内容	・ 獣医学教育の目的、方針 ・ 3つのポリシー ・ 教育課程の概要

【自己評価 8-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	獣医学教育課程のウェブサイトを開設して、獣医学教育課程に関する情報を掲載し、常に更新している。	3
○	獣医学教育課程のウェブサイトを開設しているが、獣医学教育課程に関する情報に不足や不備があり、更新も稀である。	2
	獣医学教育課程のウェブサイトを開設していない。	1

【評価の視点 8-4】学生に教育に関する情報を適切に公表していること。

●基本情報：学生に教育に関する情報を公表する方法について記述してください。

- ・大学ホームページ
- ・Web 情報学生支援システム (UNIPA)
- ・履修ガイド
- ・学内掲示板
- ・各種ガイダンス (年度初めに学年毎、国試、共用試験、学外実習等)

【評価の視点 8-5】教職員に教育に関する情報を適切に公表していること。

●基本情報：教職員に教育に関する情報を公表する方法について記述してください。

- ・大学ホームページ
- ・Web 情報学生支援システム (UNIPA)
- ・履修ガイド
- ・学内ホームページ (RINES 教職員用)

※ 評価の視点 8-1～5 に関する自己点検・評価の概要・長所・問題点を箇条書きなどで簡潔に記載してください。

評価の視点 8-1

- ・自己点検・評価の概要：自己点検・評価体制を整備している。
- ・長所：全学的な体制で対応している。

評価の視点 8-2

- ・自己点検・評価の概要：自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げる仕組みが整備されている。
- ・長所：全学的な体制で対応している。
- ・問題点：自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げる対策が充分とは言えず、私立大学等改革総合支援事業に選定される大きな改善を得られていない。

評価の視点 8-3

- ・ **自己点検・評価の概要**：獣医学教育課程のウェブサイトを整備している。
- ・ **問題点**：獣医学教育課程のウェブサイトを開設しているが、獣医学教育課程に関する情報に不足や不備があり、更新も稀である。

評価の視点 8-4

- ・ **自己点検・評価の概要**：学生に教育に関する情報を適切に公表している。
- ・ **長所**：学生に対する教育に関する情報の公表は、Web 媒体、紙媒体、対面での周知等複数の方法を組み合わせて実施しており、適切に実施していると判断できる。個々の授業に関する情報は、メール配信、Web 情報システムによる掲示や掲示板を活用してこまめに行われている。また、国家試験、共用試験や学年毎のイベント等に際しては、掲示に加えて教員、事務職員共催でガイダンスを行っている。

評価の視点 8-5

- ・ **自己点検・評価の概要**：教職員に教育に関する情報を適切に公表している。
- ・ **長所**：教職員に対する教育に関する情報の公開は、学内ホームページやメール配信、各種会議での情報共有等、適切に実施している。